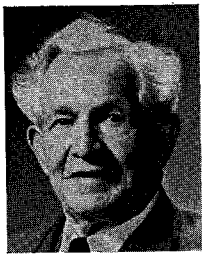




モルモン大隊の記念碑

聖徒の道 1969 10



心の糧

大管長 デビッド O. マッケイ

人類が救い主、主なるキリストの教えに思いをめぐらし、これまでも増して多くの人々が態度と行ないを確立すべき時は今である。

大勢の人々が心と生活を変えるのではなくては、世界はますます混乱をきわめて、私たちの文明は分裂の危機に瀕するであろう。

世の人々の心が神から離れていることは、悲しむべき事実である。ほとんどの人は神の栄光によらず、自己を宣伝したいという気持ちに促されて日々を生きている。不敬の心は明白に現われている。

世界には不信心ではなく、敬神の心が必要である。放縦ではなく、自己訓練が必要である。キリストと共に「父よ、……わたしの思いではなく、みこころが成るようになしてください。」(ルカ 22:42) と言える力が必要なのである。

キリストは平和をもたらすために来られた。キリストの道に逆らうことは、争いと論争を激しくするばかりである。主ではなく人間が、おそろしい争いと悲慘を招いているのである。戦争は不正な指導者のよこしまから起こる。自由が勝利をおさめ、平和が来てはじめて、私たちは戦争の終結と人々の善意を望めるのである。

—— も く じ ——

予言者のことば

我々の務め	大管長 デビッド O. マッケイ	417
カーセージへの道	リグランド L. ベイカ	419
モルモン大隊の記念碑	リチャード J. マーシャル	423
息子に対して思うこと	ダニエル S. ヘス	425
汝主を愛すべし	ヘンリー D. ティラー	426
模範の力	デルバート L. ステイプレー	428
互いによきパートナーとなる	ロウエル L. ベニオン	431

日曜学校

教えることは思いと人を結ぶかけ橋	ジーン T. クンシ	432
------------------	------------	-----

扶助協会

女性らしさを教えるには	アルバート L. ペイン	435
私に何を望まれますか	アフトン W. ハント	437
大切な教訓	ゲイリー E. ボー	438

若人のページ

勇気ある人は少ない	リンダ スー ローパー	439
伝道部長会メッセージ	岡崎、鈴木、神崎	441
ローカル・ニュース		442
教訓をおろそかにする時	リチャード L. エバンズ	裏表紙

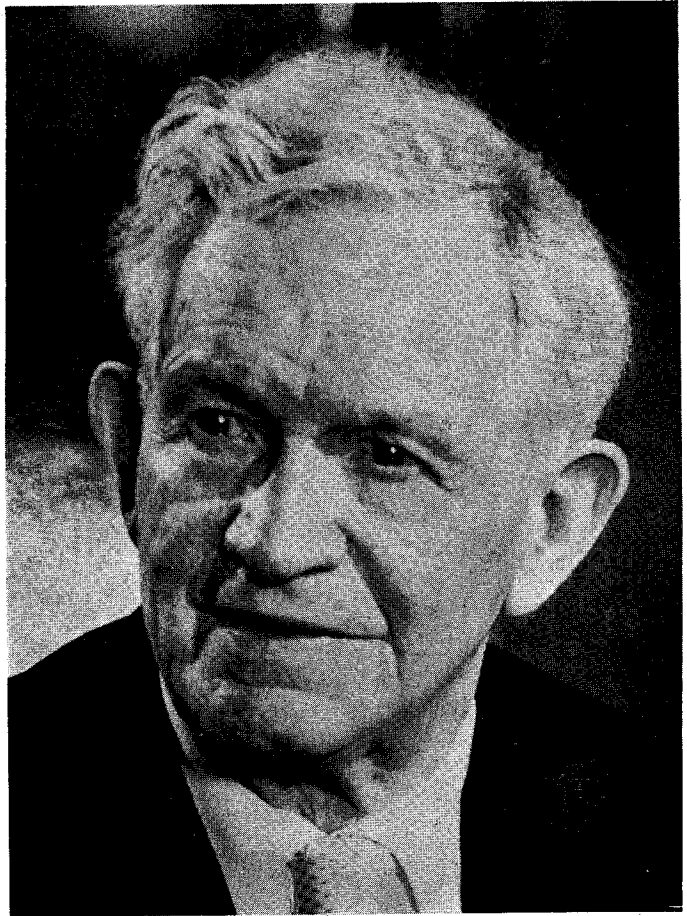
子供のページ

マークと海竜(かいりゅう)	マーベル・ジョーンズ・ガボット	89
ソロモン王物語	ドロシー O. バーカー	90

今月の表紙

軍隊史上最大の行軍の一つであったとしばしば言われている、モルモン大隊の3,300キロにおよぶ徒歩行軍は、国家の軍事的先駆となる壮挙であったばかりでなく、教会に対しても一大使命を果たすこととなった。

表紙は、大隊を記念して最近完成されたソルト・レークの彫刻家エドワード・フラウトン作の彫刻。



我々の務め

大管長 デビッド O. マッケイ

人々を真理へとかりたてる自然の感情が存在している。真理の探求は、人類に課せられた責任の一つである。しかし、その責任は世の人々以上に末日聖徒の肩にかかっている。末日聖徒は、永遠の福音が回復されたという真理を知っているからである。福音の標準に生きる若者は気高く、女性を守っていやしめることがない。彼らは若い女性に悲しみをもたらすことがない。女性を敬い悲しみの代りに喜びを与えるからである。社会にあっても、彼らは何かの職に選ばれる時、その真価をあらわす。彼らは己れのものでない財産を奪うことも、他人の権利を犯すこともない。

決意したからには

我々はみな、自分の責任を果たすべきである。それは他人にせきたてられるからではなく、その責任を自分の権利であ

ると考え、果たそうと心に決めたからである。

我々は、数十年前にいたと聞いている船乗りたちのように強い感化を受けて、個人の責任を果たすべきである。それは奴隷反対運動の盛んな時期のことであった。ボストンのフェニール・ホールで、ある集会が開かれた。これらの水夫たちは、その集会を解散させるために雇われたようであった。彼らは一団となってそのホールへ行き、床を踊りまわり、歌い叫んで、ありとあらゆる手を尽してその演説の妨害をしようとした。自由を愛し、古き良き故郷を想い、マサチューセッツ州の名誉を思う彼らの訴えもすべて無駄であった。しかし、なおも彼らはかく乱を続け、静かにしようとはしなかった。

突然、明らかに彼らの仲間の一人と思われる男が立ち上った。彼の出現で会場は一瞬静まりかえり、チャンピオンを見るかのように、荒くれ男達はかく乱をやめた。その男は言った、「諸君、我々は自分でそうしたいと思わなければ、どうしても静かにはしない」この言葉に勢いを得た荒くれ男達はどっと喝采し、拍手はしばし鳴り止まなかった。男たちがもっと聞きたいと思って静かになると、その男は続けた。

「そうだ、我々は自分でそうしたいと思わなければ、絶対静かにはしない。しかし、もし我々が諸君だったら、我々は静かにしたいと思うだろう。それはただこのホールの名声、マサチューセッツの名誉、また政府に対する忠誠のためばかりではなく、諸君が常に権利と正義と言論の自由のために立ち上る立派な人物にちがいないからである。」彼らは静かになった。その言葉が彼らの男らしい心を動かしたのである。我々は意を決して個人の責任を果たすべきである。他人にせきたてられるからではなく、正しいことをなそうと心に決意したために……。

せまき道を歩め

もし私が良心にあるはっきりした道を進むことが正しいと告げられても、それに従わないならば、自分自身に不忠実な者である。確かに、我々は自身の弱さや外部からの影響によって動揺する。しかし、あらゆる責任を果たすに当り、真っ直ぐでせまき道を歩むことが我々の責任なのである。

確かだと知っている真理に従って歩む機会がありながら、それができなかったり、良き思いや行ないを実際に表わせない時、我々は自分を弱めて、良き思いや行ないを行動にあらわすことをますます困難にしているのである。

よい行動をし、気高い思いを表わすたびごとに、次にそのように行なうことがますます容易になってくる。

神は我々を祝福したまい、真理を知らせて下さった。しか

し、真理を知っていても、もしそれを表現せず他人に知らせなければ、不充分である。すべての教会員には、世人に福音を説き、幸福をもたらす責任がある。もし各会員が宣教師となり、このよろこびのおとずれを他の人々にもたらすとしたら、なんとすばらしい宣教師制度ができることであろう。また、なんとすばらしい真理を他の人々に、もたらし得ることであろうか。

この上ない献身

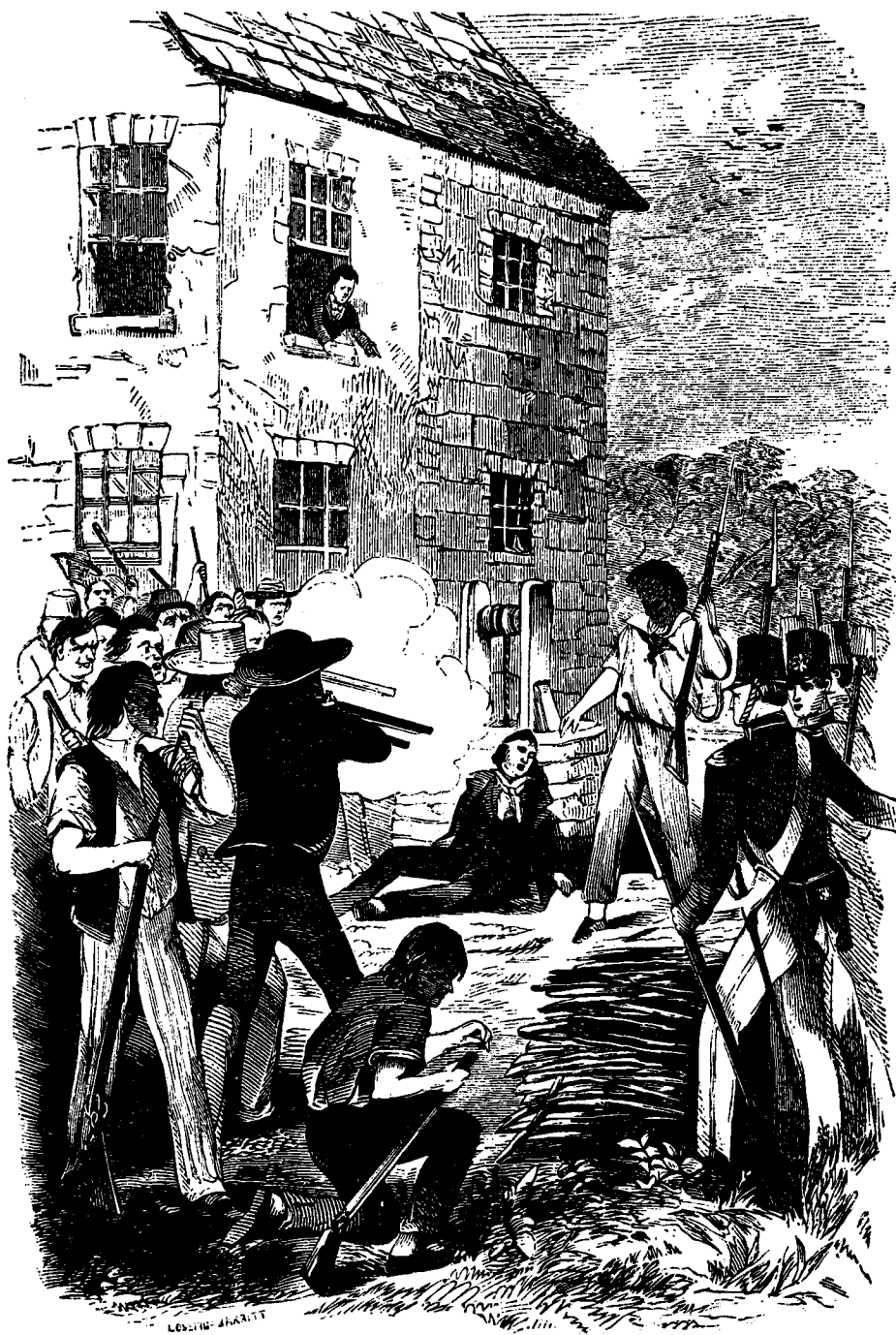
この責任を担って行くのに二つの大切なことがある。第一に、教会の標準を個人が固く守ることである。我々には常に模範を示す機会がある。

確かに、教会の標準を高く揚げることなしに、我々は真理の代表者となりえない。それは説明を必要としないごく簡単な言葉である。もしあなたの仕事に代理人がいたとして、彼があなたの標準に従わず、あなたの意図する善いことをあらわそうとしなければ、あなたは代理人をやめさせることであろう。我々が福音の標準を高く掲げなければ、主は我々を長くそばにとどめておきたもうであるうか。清い生活をすることこそ非常に大切な責任なのである。

① 第二に、これは一層大切な責任であるが、他のすべての人々に関心を寄せることである。

我々は、神、キリスト、真理に対して至上の愛を捧げ、献身しなければならない。このことは、我々が妻や父母を軽視するという意味ではない。我々の模範であるキリストは、決してそのようになさなかった。主が十字架上で最後に考えられたのは母親のことであった。主はこのように言っておられるからである。「『婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です。』それからこの弟子に言われた、『ごらんなさい。これはあなたの母です。』そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとった。」(ヨハネ19:26~27)これが模範である。

罪は人の心から取り除かれねばならない。私の兄弟、姉妹友人の皆さん、あなたがたはイエス・キリストの福音による以外に、罪の根絶を計る方法があると言い得るであろうか。私は、これをおいて他に方法はないことを確かに知っている。そして、この罪を根絶するということは、この教会のすべての男女、すべての少年少女の責任である。あなたがたは指導者に召されないからといって落胆してはいけない。あなたにはあなたのなすべき仕事がある。「この故に、今や皆各々その義務を覚り」、またその務めをなす際は「全く勤勉に勤むべき」なのである。義務が何であろうとも、それをよく果たしなさい。そうすれば、あなたがたはよろこびを得て、主の祝福を受けるにちがいない。(教義と聖約 107:99)



カーセージへの道

リグランド L. ベイカー

ジョセフ・スミスは殉教する一年半前、次のような言葉を一般の人々に対して述べました。

「私が今から申しあげることがは、確かに私が知っていることである。私は私の使命と務めを理解している。全能なる神は私を守って下さる。神が私の友であれば、人は私に何がで

きるだろうか。私は時が来るまで死なない。時が来れば御意のままに召されるであろう」

数ヶ月後、ジョセフはさらにはっきりと述べています。

「……私は予言する。私の務めを果たし、死ぬ準備ができるまで、彼らは私を殺すことができないであろう」

ジョセフ・スミスが、自身の血により証を結び固める時が彼の使命の絶頂であることをいつ知ったかはっきりしません。が、モルモン経の翻訳を終える前にすでに知って、それを受け入れていたようです。(教義と聖約5:22)

モロナイの最初の訪れを受けた際、彼の名前が良きにつけ悪しきにつけ人々に知られるということの完全な意味について知らされたかどうか、ジョセフは何も語っていません。また彼がモルモン経を翻訳していた時、ジョセフの名前が予言されている箇所「……かの聖見者を亡ぼそうとする者共は恥を受ける」というところで、立ち止り、深く考えたかどうかも記録されていません。

だが、**「彼を亡ぼそうとする」**であろうことを、ジョセフはきつと確信していたことでしょう。ジョセフの母の記録には、多くの者達が彼の命をねらっていたことが書かれていました。ジョセフの日記にも、彼を殺そうとしていた者達の話が非常にたくさん記してあります。

その一つをお話ししましょう。真冬のある夜、ジョセフは幌馬車を手に入れて、オハイオ州カートランドからのがれました。ジョセフ達は殺害を企てる暴徒に追われました。

「酷寒の中で、我々は幌馬車に隠れ、ある時は、我々の命をねらって手にピストルや銃を持ちカートランドから300キロも追って来た者の追跡から逃れねばならなかった。追跡者とすれ違うことは度々あったし、同じ宿に泊ったことも二度あった。一度は、仕切りを隔てただけの隣り合わせで一晩を過ごしたこともあった。我々を捕えた時の誓いや、のろいやおどしの声が聞えて来た。そして、その夜遅く彼らは我々の部屋に入って来て首実験をしたが、違う男達と思っらしく出て行った。ある時には、我々は道で彼らとすれ違い、お互いに見つめ合ったが、彼らはそれと気がつかなかった」

遂に、暴徒達は予言者の追跡をあきらめてカートランドへ戻って行き、ジョセフはミズーリ州へ行きました

それから一年もしないうちに、予言者は別の暴徒に襲われ裏切られ、彼らの手におちました。「暴徒達」は不法な軍法会議を開き、翌朝ジョセフを銃殺にするという判決を下しました。処刑の時間が来た時、執行は延期され、ジョセフとその友人達は射撃隊の前にひき出されずにすみました。暴徒達は彼らの命は助けましたが、モルモン教徒は牢獄から牢獄へと引き回され、人々からあざけられ、さらしものにされつばを吐きかけられました。ジョセフとその友人達は、出獄を許可されるまで、冬のさなか悪夢のようなリパティ牢獄の夜を過ごさねばならませんでした。

迫害の手がのび、日毎に苦しい思いをしていた幾人かの教会員や元教会員によってさえ、ジョセフの命をねらう企てが試みられていました。聞くところによれば、ウィリアム・ロ

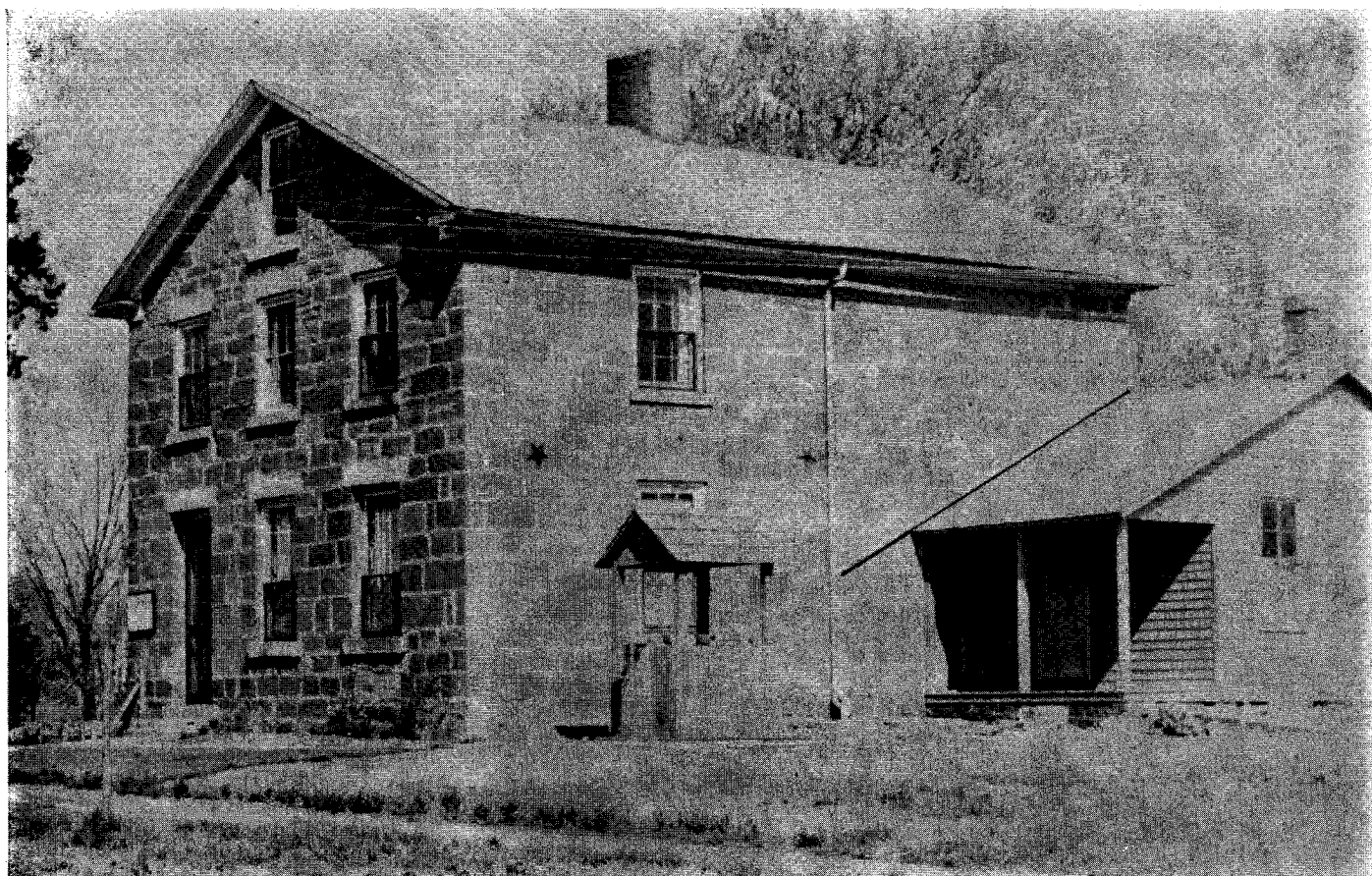
ウの鉄砲係として働いていた少年を含めた人々の手により、その策が講じられたことがあったそうです。その少年は、ロウが予言者殺害計画を立てているのを立ち聞きして、「急いで身仕度を整え、予言者の家へ駆けつけ、見聞きした一部始終を話し、何をしたらよいかと尋ねた。すると予言者は、その少年に向って、主人の命令に従うようにと言い、銃に装弾しておくようにと勧めた。また、時が来るまで、彼らは私を撃つことができないと語った。少年は、主人の言うところに従った。翌朝、ロウは少年に彼の六連発式ピストルを磨き、装弾しておくように命じ、少年は予言者の忠告を思い出し、そのようにした。狙撃の機会が到来した時、ロウは予言者にピストルを向けた。ロウは必死に引き金を引いたが六発のうち六発とも不発に終わった。ロウはピストルが不発に終わったために怒り、正しく装弾しておかなかった少年を責めた。けれども少年は正しく装弾したと答えたので、ロウはポストをめがけて引き金を引くと、六発とも発砲した」

ジョセフ・スミスの死ぬ時期は、まだ来ていなかったのです。

けれども、ジョセフはこの出来事以来、死に備えて準備を始めました。

ジョセフにとって解決しなければならない最も重要な問題の一つに、指導者の問題がありました。すなわち、予言者の死後、だれが教会を指導する責任を持つかということでした。ハイラム・スミスは教会の副管長でしたので、彼がその責任を継承する権利を持つはずでした。この地位にあって、(初めはオリバー・カウドリでしたが)ハイラムは弟のジョセフと共に大管長会のすべての鍵と権能を持っていました。ハイラムの持つその権利に従って、ジョセフはハイラム・スミスを大管長の後継者として、「按手聖任」しました。その後予言者はハイラムに、家族に危険がなくなるまでノーブーを離れているように言いました。けれども副管長は、自分の証を予言者の証と共に結び固めることは、彼の責任であることを知っていました。あきらかに、ハイラムは、大管長として弟の後継者となることもできましたし、カーセージに行つて、ジョセフと同様証を自分の血によって結び固めることもできました。ハイラムはそのいずれをも選ぶことができましたが、カーセージに行くことを選びました。従って、十二使徒評議員会が当然の結果として大管長のつとめを継ぎました。

「殉教する数ヶ月前から」ジョセフは、十二使徒会が教会を指導することを「完全に知って」いました。この責任の準備をさせるため、ジョセフは「毎日神のみたまと権能を身にまとして、十二使徒の前に立ち、神託、天に就けるものの様式、王国の鍵、神権の権能、時満ちたる最後の神権時代の知



識に関して指示を与えた」

ジョセフが十二使徒達に鍵を授ける前に、十二使徒の個人指導だけでなく、教会全体にもかなりの指示が必要でした。たとえば、ジョセフは殉教数ヶ月前に、教会が西へ行くことをはっきりと知っておりまして。ジョセフは教会員達に、この西への移動は計画の一部であって、ブリガム・ヤングや彼の同僚の考えに始まった当初の計画と離れた革新的なことではないことを理解して欲しいと願っていました。

ですから、予言者は会員達にいつもその移動の準備をさせていました。彼は聖徒達の定住地を見つけるのに西へ行かせるため探險隊を組織しました。けれども探險隊をすぐには派遣せず、ノーブーに留まらせ、定期的に会合を開き、ロッキー山間地方についてすでに知られている事柄を徹底的に研究しました。また、聖徒が喜んで西へ旅することができるような道筋の地図を作りました。聞くところによると、ブリガム・ヤングやモルモン大隊の人々もこの地図の写しを使ったそうです。

予言者は、また西部で教会員を治める政治機構も組織しました。当時、大盆地地域はメキシコの領土で、合衆国の統治管轄外にありました。ジョセフの組織によると十二使徒評議

員会をその一部とする五十人評議會を召集し、彼らが統治機関に加わり、教会員の西部移民、移住を指示するのです。

ジョセフやハイラムが自ら指揮しなくとも正しく機能を果たせるように教会を組織してから、ジョセフは、指導者達を集めて最後の指示を与えました。ウィルフォード・ウッドラフとベンジャミン F. ジョンソンはその集会の模様を次のように書き留めています。

「十二使徒評議員会に対するジョセフ・スミスの最後の話は、ノーブーのとある建物で行なわれた。それは、今まではこれからも死すべき人間からは聞くことのできないような話であった。ジョセフは神の「みたま」と権能を身にまとい、顔は琥珀のように輝いていた。部屋は焼き尽くす炎に満ちているようであった。ジョセフは三時間立ったままでこのように話した。『あなたがた神の子羊の使徒達は、地上で主の目的を遂行するために選ばれた。私は今や、この神権時代の頭として立つ予言者、聖見者、啓示を受くる者として、時満ちたる最後の神権時代につけるあらゆる鍵、あらゆる儀式、あらゆる原則とあらゆる神権を受けている。私はこれらすべてのものをあなたがたの頭に結び固める。

そして、主の御名により、私は今や全世界の人々の神の王

国をささえる責任を肩からおろし、神の王国につけるあらゆる鍵、権能、特権を伴う責任をあなたがた十二使徒に置く…」』

福音の回復と教会の設立に関する限り、予言者は彼の証を結び固めることを除いて、すべて課せられたことをなしとげ、今やその残されたものをなしとげる準備ができていました。

ジョセフ・スミスがその時どのように感じていたかを知るのは困難です。後に述べたことですが、彼は「死なねばならない」ことを知っていました。友と共に留りたくも思いましたが、安らぎをも望んでいました。ベンジャミン F. ジョンソンの記録によれば、殉教する直前、予言者はジョンソン兄弟の家を訪れ、「疲れ切った様子で深いため息をつき、椅子に深く腰をかけて言った。『私は本当に疲れ切ってしまった。休みたく思うこともある』。そして、彼の生涯の働き苦難、犠牲の最も感動的なくつかの事件を私達に語り、そして次のように言った。『私は疲れた。休息に入りたい』彼の言葉とその声の調子に、私はぞっとするような気持を覚え衝撃を受けた。あたかも彼にもっと生きていてもらいたいという私の望みに矢がぐさりとささるようであった。私は、心の中に悲しみがあふれて、こう言った。『ジョセフ、私達民は、あなたがいなかったらどうしたら良いのですか、末日の偉大な業はどうなるのですか』。ジョセフは私を見て、私の感情の激動に心を動かし、『ベンジャミン、私は幕の向う側にいて、この王国の建設のため、あなたがたと一緒に偉大な権能を使って働いているだろうから、決してあなたがたから離れるわけではないのだ。』と述べた」。

しばらくして、予言者の生命を狙う陰謀が企てられました。200人に及ぶ予言者の敵は秘密結社を作り、「ジョセフとジョセフに従う人々を滅亡させるため」、生命、自由、力、すべてを捧げるという誓いが立てられました。

予言者はこの陰謀について友人達から逐次知らされていましたが、彼は以前からそれを知っていました。彼らの目的に人々の関心を引きつけるため、徒党はノーブー・エクスポジター (Nauvoo Expositor) という新聞を発行しました。創刊紙で、予言者を「あばく」と題して、陰謀者達は、啓示の一部を、信じられないような汚らしい言動やわいせつな話をでっちあげて真実をゆがめて報道しました。ジョセフ・スミスを市長とした市議会は、その新聞社を不法妨害行為とし、解散させました。すると陰謀者達は、憲法で定める出版の自由に反するとして告発しました。これにより州の人々は刺激され、州知事もジョセフ・スミスを有罪と認め、州兵を装った暴徒は結集し、ノーブー市襲撃の準備を始めました。

1844年6月22日、ジョセフは最後の日記を記しています。

「私はスティーブン・マーカムに話した。私とハイラムは

今度捕えられたら、虐殺されるか、私が神の予言者でなくなるだろう。私はハイラムが私の血に報いるために生きてもらいたいと思っているが、ハイラムは私から離れないと決心しているようだ。」

明らかに予言者は「再び捕えられる」ことを知っていました。けれども、彼は事態に巻き込まれることを知っており、暴徒によってではなく彼自身で暴徒の手に落ちることを決意していました。

ジョセフは死ぬ前、すでに多くの必要な打合わせを済ませていました。最後の日記をつける二日前、すでに政治目的のために東部へ送っていた十二使徒達に宛てて手紙を書き、すぐさまノーブーへ帰るように指示しました。

予言者の最大の望みは、暴徒達がノーブーに入らないことでした。暴徒達がノーブー市に近づいているというニュースを聞いた時、予言者は兄のハイラムと共にミズーリ川を渡って西部へ向うことを知らせました。暴徒が市に入ってきて、ジョセフがそこにいないことを知れば、市には何の危害も加えずに立ち去るであろうと言って、ジョセフは友人達を安心させました。そして、ジョセフとハイラムは川を渡りました。翌朝、暴徒が市に着き、予言者がいないことを知ると、言った通り、暴徒は「すぐさま」立ち去りました。

二人の兄弟は今や自由の身となりました。もし望めば、敵の手を逃れて、西部へ行くこともできました。けれども、二人は「終りまで見極める」ことを選びました。(これはハイラムの言葉でしたが、ジョセフも来るべき殉教を指してこの言葉を一度使ったことがあります) カーセージへの道で、ジョセフは次のように述べました。

「われは、今はふり場に引かるる羊の如く行く。されど、わが心は夏の朝の如くに穏かなり。わが良心は神に対しましてすべての人々に対しいささかの咎めもなし。われは罪なくして死なん。而して、世の人々は彼は残忍なる者の手に殺されたりと言わん」と。(教義と聖約 135:4)

数日後、カーセージの獄中で、ジョセフは妻に宛ててこのように書いています。「私は自分が正しいことを知り、また最善を尽したことを知って、今はただみこころに任せている子供達と友人に私の愛を伝えてくれ……」

最後の時が来ました。暴徒は牢獄の扉を乱打し、ハイラムは狙撃され、床に倒れました。予言者は「穏やかに扉を離れると、ピストルを床に置き、窓へ飛び上った。すると同時に扉の方から発射された二発の銃弾が彼を貫き、外からの一発が右胸に命中した。ジョセフは『おお主よ、わが神よ』と叫びながら、暴徒の手へと落ちた。」

「証詞を遺せし人たち今や亡し。されどその証詞は効力あり。」(教義と聖約 135:5)

モルモン大隊の記念碑

リチャード J. マーシャル

この夏、カリフォルニア州サンディエゴの町は人々が足を踏み入れて以来 200 年目を迎えます。これを記念してユタ州の開拓者の子孫である人々は会を開き、また一つ新しいモルモンの芸術作品を作ることに決めました。それは背中に背のうをせおい、肩にライフル銃をかけ、左手にモルモン経をしっかりと握りしめて進軍するモルモン大隊を現わす 9.5 フィート（約 2.85m）もある巨大な彫像です。

この記念碑はソルト・レーク市でモルモンの彫刻家エド・フロートンによって創作され、すぐにイタリアのフローレンスに運ばれ青銅に鑄造されています。これはサンディエゴ市に寄贈され、1847 年から 1848 年までそこに駐留していたモルモン大隊がサンディエゴ伝道部につくした偉大な貢献を永久に記念するために、市の公園に設置されることになっています。

メキシコとの戦いでカリフォルニアを守備するために送られたモルモンの将校たちは、守備隊としての責任だけに満足せず、隊を「家を建て、井戸を掘り、囲いを作る」等の仕事につかせました。そして、モルモン大隊はカリフォルニアで最初のれんが焼きのかまを作り、そこで焼いたれんがを使って大きな裁判所と学校を建てました。この二つの素晴らしい建物が完成した時、市民は完成を祝ってパレードをくり広げました。

当時の歴史家はこのように書いています。「これらの仕事以外に、モルモンはサンディエゴ市民のために多くの大工仕事をし、たくさんの人々を危険から守った。そして彼らは多くのサンディエゴ市民に惜しまれてそこを去った。」

そのモルモン大隊の一員であったヘンリー G. ボイルはその仕事について次のように記しています。「私は、サンディエゴ全市を水しっくいできれいに塗ったような気がする。我々はかじ屋の仕事、パン工場の建設、荷車の製造、修理…とサンディエゴ市民だけでなく我々にも益となるようなことはすべてやった。市民は我々に非常な愛着を感じるようになってきたので、我々の軍務期間が切れる前に彼らは我々の軍務期間の延長を知事に請願したのである。この請願書にはサンディエゴ全市民の署名が集まった。」

三カ月間の重労働の後、モルモン大隊の大部分はサンディエゴを去ってサンバーナジノへ移りました。そこでの彼らの



任務は、シエラ・ネバダ山脈のカジョーン峠を守備し、インディアンが襲ってくるのを防ぐことでした。一方、サンディエゴに残った隊は1848年の3月までそこに留まり、その後ボイル大佐とオリン・ロックウェル大佐（前年の冬、ソルト・レーク市から赴任してきた）の二人の指揮のもとにユタへ戻り、南カリフォルニアからユタまでの最初の道を切り開いたのです。

1847年にユタへ向って出発した兵士のほとんどは、カリフォルニア海岸づたいに歩いてサクラメントまで行き、そこで彼らはジョン・A・サター大佐（アメリカの探検家）のところで一時働きました。合衆国政府の軍務についていた時、ひと月に7ドル得ていたかつての大隊のメンバーは、サター大佐の水車用水のみぞ掘り仕事に応じたのです。

長い旅を通してモルモン大隊の歴史を書きついで公式歴史記録者ダニエル・テイラーは彼の戦友が金を発見したことをたたえて次のように書き記しています。「モルモンの労働者が我が国の富の最も大きな資源を開発したと言っても決して過言ではないだろう。」また彼はこのようにも記しています。

「1848年の1月24日頃だったと思うが川が急流と化し、製材所をその流れの中に巻き込んでしまった……かなりの倒壊を招き、家の土台ごと押し流された家屋もあった。マーシャル指揮官が押し流された状況を見に降りて行き、いろいろ調べていると、ふと黄色のびかびか輝いている金属が彼の目にとまった。拾いあげて調べてみると、それは金であった。」

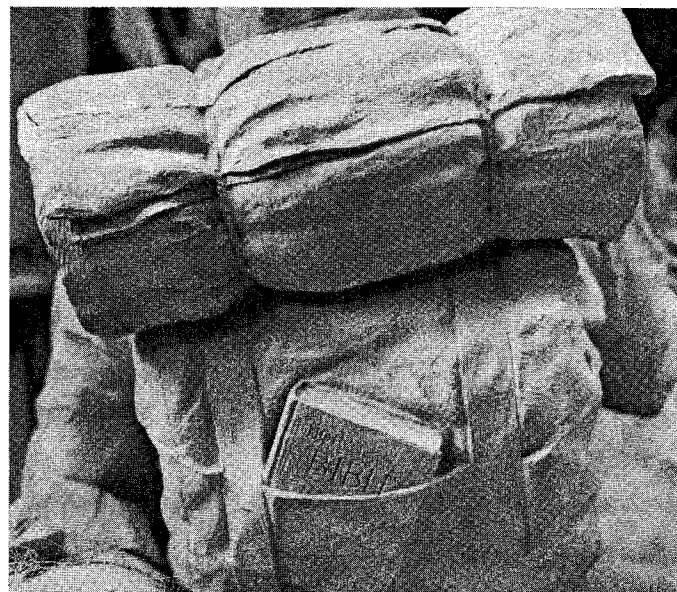
しかしブリガム・ヤングはモルモン大隊に家族をとまなげ自分と一緒にグレート・ソルトレーク盆地へ行くように勧めたのです。隊員は彼の言葉に従いました。「我々は聖徒とヤング兄弟と共にその地を耕すために、金が出る土地を断念したのだ。」と彼らは語ったのです。

サンディエゴの記念碑は彼の静かなる勇気と献身を生き生きと描写しています。兵士は手中にモルモン経を握りしめてただけでなく、ブリガム・ヤングの指示通り背のうの中に入れて聖書をも持っていたのです。そのような指示を与えたブリガム・ヤングは、かつて徴募軍曹としてウイラード・リチャーズを書記にともない、教会や政府に求められている500人の志願兵を募るために活発に働き、立派にその任務を果たしたのです。

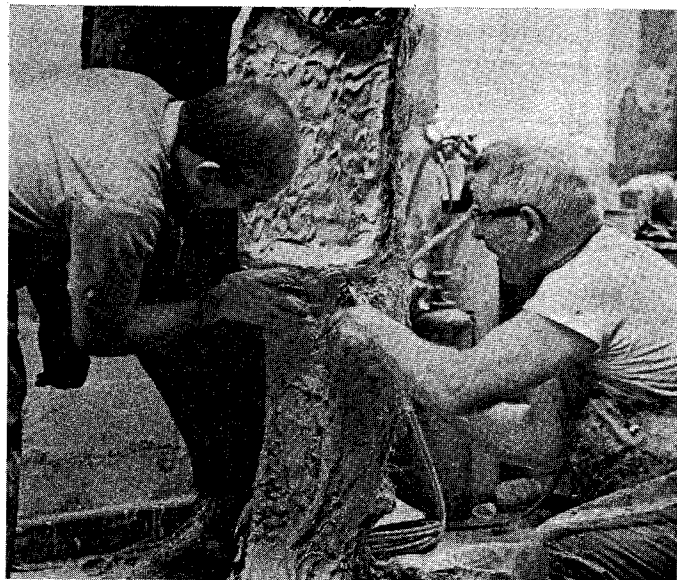
これは兵士たちの持つ異常な力によるものでした。ブリガム・ヤングは各隊の隊長に「隊員一人一人の父親になって、すべての職務を神権の力によって行ないなさい」と指示し、さらに、「その力はあなたがたの生命を、隊員一人一人の生命を守り、多くの困難を切り抜けてくれるだろう。」と



手にはモルモン経を携えている



石こうによる背のうの複製



柔軟なゴム型を堅くするために石こうをかける

約束したのです。また「常に清潔であるように、また隊員に純潔、上品、丁寧を教え、ののしりの言葉を許すべきではない」と忠告しました。そしてついに彼は、「たとえどこへ召集されても、次の神殿は必ずロッキー山脈の大盆地に建てられる。それは聖徒が暴徒から身を守ることでできる要塞となるであろう」と約束しました。

長いたいくつな旅の途中に、またサンディエゴで重労働をしている間、彼らの心の中には大盆地で必ず家族や友人と会えるという強い確信がありました。サクラメントで金が発見されたにもかかわらず、ヤング大管長の忠告と約束は彼らを金の誘惑から遠ざけ、「再び聖徒と共に生活する」という彼らの目標を心に持ち続けさせました。

サンディエゴでの大隊の指揮官P. セント ジョージ クック陸軍中佐は教会の会員ではありませんでしたが、モルモン大隊の人々に心から愛されていました。彼がアメリカの公式歴史記録にこの異常な力に対する賞讃の言葉を書き記したのは、サンディエゴにいた時でした。彼らが丁度3200キロメートル以上にもわたる進軍を終えたことを指摘しこのように記しています。「この歩兵隊と同じ経験をしたものを歴史の中に探し求めようとしても無駄であろう。歩兵隊の通った道はそのほとんどが野獣のすみかか、または水がないためどんな生物も存在しない荒涼とした砂漠だけであった。その砂漠の中で我々は、水が湧き出そうもない井戸を深く掘り、後に続く旅人のために備えをした。こうして案内人の助けもなく我々は人跡未踏の大平原へ一歩一歩足を踏み入れていったのである。行けども行けども我々は水のありかを見出すことができなかった。金でことつるはしを手に持ち、野性のやぎ以外に何者も通れそうもない山を越え、我々の馬車より狭いわずかな岩の裂け目を切り開いて道を作った……こうして衣料もなく、食物も満身に得られず、わずかに野生の動物の肉で飢えをしのぐといった状態で進軍し、彼らは国家に偉大な貢献となった道を切り開いていったのである。」

モルモン大隊のなした貢献は南西地域において、いくつかの点で重要な意味を持っているはずですが、自分たちの見出したものをより良いものとするために骨を折って働き、ユタの荒れはてた高い山々にまで足を踏み入れていった、勇敢なそして勤勉な兵士をたたえているのはサンディエゴの人々です。

戦闘と緊迫した現代において、この新しいブロンズの記念碑は他の時代の他の兵士達一人一人の犠牲を無言のうちに証言しています。神と国家のために働くという、国を愛する者の目標に向って彼らは進軍しているのです。

息子に対して 思うこと

ダニエル S. ヘス

私は息子のスティーブンをしかるのに、体罰を使うまい。

人生最大の理想は、強制ではなく愛によって達成される。

大人と同じように、息子にも尊敬の気持ちをもってはげましつきたい。

消極的な態度をとって、息子を萎縮させたり、失望させまい。

愛や感謝という積極的な態度をとろう。

息子の身体が成長するにしたがって多くのエネルギーが消費されるのを忘れまい。

いつも自分の短所を思い起こし、私が若い時に忍耐と理解を示してくれた人々に感謝したことを忘れないでいよう。

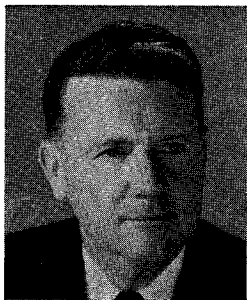
私は息子の父親なのだから、息子の前にあっては、いつも威厳と尊敬をもって振舞おう。息子はまだ幼く、理解できる年頃ではないことを認めなければならない。

模範が最大の教師であることを忘れまい。私の思いと行ないは、息子にまねて欲しいものだろうか。

大きな成功を収めるかどうかは、私の息子に対する行ないにかかっている。父親として私にゆだねられている信頼という責任は、いつまでも消えることがないからである。いわゆるこの世的な名声は死と共になくなるが、すばらしい両親となることは、この世でもまた永遠にも、多くの霊達に直接間接に影響を与えるのである。

この世で一番大切な宝は子供であり、それはこの世の肉体を与えられ、私にまかされた霊なのである。

汝主を愛すべし



十二使徒評議員会補助

ヘンリー D. テイラー

教 会はその初めより家庭の重要性を強調しています。家庭は地上の天国ともなります。家庭に愛があれば、その家庭は幸福なはずで

す。救い主が地上でその使命を果たしておられた間、特に愛の原則を強調されました。ある時一人の博学な律法学者が救い主に近づき質問しました。「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか。」イエスは言われました。

「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である。『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これらの二つのいましめに、律法全体と予言者とが、かかっている。」(マタイ22:36~40)

またある時、主は、天父なる神と隣り人を愛することに加えて、私達の敵すらも愛すべきであると教えられました。私達人間の弱さと偏見から考えると、これは大変なチャレンジです。主はこのような勧告しておられます。「あなたがたの敵を愛し、のろう者を祝福し、憎む者に善をなし、さげすむ者、迫害する者のために祈れ。」(マタイ5:44、欽定訳)

アメリカのある政治家が、このように述べたことがあります。「友達になることで敵を負かせ。」

また、別の政治家でこういう言葉もあります。「あなたが敵を作ったのだから、敵に親切にしなければならない。」

主は夫たる者にその妻に関して強い忠告を与えておられます。ここに主の戒めを述べます。「汝ら誠心を以て妻を愛してこれと結び合うべし。その他の者に愛着することなかれ」(教義と聖約42:22)

この偉大な徳すなわち愛のもつ一面と慈愛(純粋な愛)との関係を考えてみてください。

ある点から見ると愛と慈愛は同義語のようです。古代の予言者モロナイは、父モルモンを例にとってこの点を明らかにしています。「……あなたたちにもしも愛(慈愛)がないならあなたたちは空しい者である。……この愛はキリストの純粋な愛であって永遠につづくものである。従って終りの日にこのような愛を持っている人はさいわいである。」(モロナイ7:46~47)

慈愛は、キリストの純粋な愛だけでなく、私達のキリストに対する純粋な愛とキリストの私達に対する愛という意味もありますし、あるに違いありません。

救い主は、愛に関する御自身の言葉が決して空しいものでないことを立証されました。主は自ら私達のために生命をおすてになって愛を示し、私達は主の贖いの犠牲によって救いを得られるようになり、私達が主の戒めに従うことによって昇栄と永遠の生命を得ることができるようになったのです。主の贖いは、「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない」(ヨハネ15:13)という教えに意味を与えたのでした。心から愛していなければ、友達のために命を捧げる人はいません。

主の非利己的な行ないは、他の言葉にも非常な重みを与えています。「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える。互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」(マタイ13:34)

西ドイツのミュンヘンに住む一人の孤独なベルシャ留学生が人生の意味を見出そうと悩んでいました。彼は、特に戦後のヨーロッパに満ちている物質主義、利己主義の世の中に心が乱されていたのです。ある時、ドアをノックするので開けてみますと、二人の人のよさそうなモルモン教会の長老が立

っていました。彼は宗教には全然興味を持っていませんでした。彼の心は冷やかな気持と疑いに満ちていて、そのために神は存在せず人生にも意味がないと考えるほどでした。

彼は、二人の若者の英語のアクセントに興味をひかれただけでした。彼は4カ国語をマスターしていましたが、英語はまだでした。

彼は長老達を招き入れました。けれども話し合いを始める前に、こう注意しました。「私はあなたがたの神やあなたがたの宗教の起源について聞きたくありません。ただ一つお聞きしたいのは、あなたがたは、お互いにどんなことをしているかということです。」彼は返事を待っていました。長老達が互いに顔を見あわせると、彼は疑いの目で見ているようでした。

そして、一人の長老が隠やかに言いました。

「私達は互いに愛し合います。」

この簡単な言葉程、このペルシャ青年の心をさしつらぬいた言葉はありませんでした。それは、これらの宣教師が主の真の僕であることを、聖霊が彼の心に直接証したからでした。それからまもなく彼はバプテスマを受け、現在では、もうすぐ博士号を受けるはずです。これらすべては、モルモンの若い宣教師の言った真理、「私達は互いに愛し合います」によるものでした。

実際には、すべての宗教が互いに愛し合うようにと教えています。けれども回復された教会は、どのようにして互いに愛し合うかを教えています。ホーム・ティーチング、すばらしい福祉プログラム、神殿での自己を捨てた奉仕、全世界の宣教師システムは、救い主の教え、すなわち「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」を非常に実際的な方法で表わしています。

この復活祭の時にあたり、私達は贖い主の犠牲を思い、主の大きな恩恵を受けていることに心からの感謝を感じております。

天父が救い主の贖いを受け入れられたということは、私達子供達を愛しておいでになる証拠です。一人の予言者はこのように述べてその点を明らかにしております。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3:16)

私達はどのようにして、天父や救い主に対する愛と感謝を表わしたらよいのでしょうか。主は私達に鍵を与えて下さいました。主の戒めに耳を傾けてみましょう。「汝らもしわれを愛すれば、われに仕えわがすべての誠命を守るべきなり。」(教義と聖約42:27)

愛は永遠の原則であり、不滅の徳です。愛はこの地球が創造される以前から存在し、永遠に力があります。マッケイ大管長はこの愛について次のような意義深い宣言をされました。「愛は人の霊がもつ最も神聖な属性である。もし、あなたが霊の不滅を受け入れているなら、すなわち、死後も存続

すると信ずるなら、愛も存続することを信じなくてはならない。」

けれども、愛は失われることもある徳です。怠惰、不注意無関心の結果、しばみ、死んでしまうことがあります。ですから、マッケイ大管長は次のような美しい言葉で注意を与えておられます。「愛に食物を与えなければならない。……愛には栄養を補給することが必要である。毎日食物をとらないと肉体が餓死すると全く同じように、愛も毎日食物をとらないと餓死するのである。」

もし、愛の原則を表わし、行なうならば、今日この動揺する世の中で人を悩まし、不幸と悲しみの原因となっているほとんどの病いや不安は消え失せるであります。

もし、私達が主なる神を愛し、主の戒めを守ることによって愛を示すならば、私達は法律を守る民となり、警察や刑務所の必要もなくなるでしょう。

もし、お互いに愛し合い、自分のように他人を愛するならば、鉄条網や銃や剣を持つ人々に守られて、会議や集りを開く必要もないでしょう。

もし、私達が自分を迫害する者を心から愛したならば、もはや敵ではなく友達となり、戦争や流血もなくなるでしょう。

もし、夫が妻を心から愛し、妻は夫を愛し、両親は子供を愛し理解し、子供は両親を愛し敬うならば、人々の間に無信仰、不忠実、口論、けんかはなくなり、離婚、少年非行、家庭の崩壊、若人の欲求不満は減少し、社会、道徳、経済の危機はなくなるでしょう。そして、平和が世の中に満ちるでしょう。

アイゼンハワー将軍は、愛を示すだけでなく、他人のために愛を表わした人でした。晩年彼はこのように言っています。「私はいつも妻を愛し、子供達を愛し、孫達を愛し、国家を愛した。」

数年前、マッケイ大管長はこの建物に集った兄弟達に対し、もし、ここに出席している9,000人位の神権者達がここから出て行って、主の教えに完全に従って生活すれば、世界を変える力を持つであろうと話されました。私はこれを信じます。また、ここに集っている私達、テレビやラジオをお聞きの皆さんが、これ以上に偉大な原則はないという愛の原則に完全に従って生活するならば、私達の生活、家庭、隣人、国家、そしてついには世界を変える力を持つことができることを信じます。最近の歌の一節にこのような感激する言葉があります。「地に平和をもたらそう。それを私から始めよう」私達は最初に自分の価値を認め、自分を愛し、大切にし、そして一緒に生活する人々、共に働く人々を愛することにより自分の生活と環境を変える力を持つことができます。

願わくば、私達がそう行なう望みと勇気とを持てますように、主イエス・キリストの御名により謙遜になって祈り奉ります。アーメン。



模範の力

十二使徒評議員

デルバート L. スティプレー

愛 する兄弟姉妹とお友達の皆さん。現在のこの道徳的にも霊的にも腐敗した世の中に真理と義を広めようとするならば、私達は生活でキリストの垂れたもうた模範のように、福音の原則、標準、理想を実践すべきであり、私達はこのことにもっと注意を払うべきであります。霊の船つき場を離れて、墮落に通じる悪の道へ踏み入ることなどできません。

世の中は、これまで以上に良き道徳と霊性を備えた男女、すなわち神の戒めを断固として守り、真実と義の模範に生きる人々を必要としています。

模範の力は、その模範を示す人々が福音に従った生活をしてこそその力、強さが発揮されるのです。そういう人々にとって、イエスキリストの輝ける福音の光は、ちょうど灯台の光のように、顔を輝かし、人々を清い道へと導くのです。

この間、私はあるステーキ部大会に出席しての帰りに、非番のシュワーズと飛行機で同席しました。自己紹介の後、彼女は友達の一にソルト・レークから来た人がいると言いました。私は、その友達はモルモン教会の会員ですかと尋ねますと、そうですということでした。また、その友達は宗教に忠実な生活をしていますかと尋ねますと、やはり、その通りですという答えが返ってきました。彼女は新しく友達になったモルモンの信仰と行ない模範に敬服していると言いました。

新しい教師の指針として、いつの世にも偉大な教師に見出される大切な点を三つあげて下さいと尋ねられたある名教師は次のように答えています。すなわち、「第一に模範によって教えなさい。第二に模範によって教えなさい。第三に模範によって教えなさい」

私達の救い主イエス・キリストは、他に類を見ない最も偉大な教師でした。イエスの教えは、いつの世にもずたれることはありません。なぜならば、イエスは自らの生活の模範によって、教えを強調されたからです。

宗教的見地からすると、模範とは、ある人あるいは人々が、他の人がまねて利益となるような行ないやふるまいを示すことです。

「現代ほど、高く理想主義的な動機に基いて行動することのすたれた時代はない。我々の時代の理想主義はもはやなおざりにされ、我々はその罰を受けているのである。」

高邁な考えや言葉も適切な模範がなければ、いたずらに鳴り響く鐘鈴のようなもので、意味がありません。

「雷のように鳴り響いて、何を言っているのかさっぱりわからない」とエマーソンは言っています。

「……見よ、われは光なり。われは汝らのためにすでに模範を示しぬ」(Ⅲ ニーフエイ 18:16)

贖い主の与えたもうたこのチャレンジを含んだ言葉には、安全と保証が約束されています。

使徒ペテロはこの言葉が真実であることを強調して次のように述べています。「あなたがたは、実にそうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。」(Ⅰペテロ 2:21~23)

「キリスト教の理想は、試されたり、欠点を見出されたりしたことはない。難しいことがわかっているから、試されないのである」と言われています。

次にあげる救い主の言葉は、今日の教会員にあてはめることができます。「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」

この聖句は良い模範の重要性と価値を強調しています。

デビッド O. マッケイ大管長は以前の総大会メッセージで、このような勧告を与えておられます。「我々は未来にたち向うつもりならば、どんなことに対しても、霊を静め、神が人を治めたもうことを確信して、個人であってもグループであっても、模範的な生活を送ろうではないか」

私達の愛する大管長のこの言葉は、これが述べられた21年前、まともっと以前と同様今日にも時宜を得ています。それは、邪悪に満ち、墮落した今日を見ればあきらかであります。

予言者ジョセフ・スミスは、人は正しい原則を教えられた後、自己を治めるべきであると宣言しました。福音は正しい原則と標準と理想を教えています、多くの人はこの教えを無視し、その結果自己を正しく治められないでいます。正しい原則を教えるということの概念に従うことに関して、主は主の王国に住む人々に次のような警告を与えておられます。

「およそ日の栄の王国の律法の諸原則によらずんば、シオンを建てること能わず。これによりて建てずば、シオンをわれに受け入ることかなわざるなり。」(教義と聖約 105:5)

兄レーマンとレミュエルのかたくなな心に嘆き悲しんでいたモルモン経の予言者、ニーフエイは、兄達に向かってこう言いました。

「あなたがたは私の兄さんではないか。それなのに弟の私があなたがたをいさめて模範を示す必要があるほど、性質がかたくなで智慧が暗いのはどうしたわけか。どうして主の言葉に聞き従わないのか。……私たちは主に忠誠を尽そうではないか。」(Ⅰニーフエイ 7:8~9, 12)

私たちは、ニーファイの言葉から次のことがわかります。すなわち、キリストは、「天の御父の前にへりくだること、天の御父に従ってその命令を守ると証明することを世の人に示したのである。また……人のふむべき道が真直ぐであることと、人のくぐるべき門が狭いことを世の人に教えたもうのであって、子羊は自分から世の人の前に模範を示したもうた。子羊は、われに従えと世の人に仰せになった。それであるから私の愛する兄弟たちよ、もしも喜んで天の御父の命令に従わないならば、私たちはイエスに従うことができるか。」また、キリストは全人類にチャレンジを与えたもうています。すなわち、「……故にわれにならいて、汝らの見たるわれの行いを汝らもせよ。」(Ⅱニーファイ31:7, 9~10, 12)

この訓戒は、神の声によりニーファイに証しされました。「わが愛子の言うことは真実にして確なり。終りまで忍ぶ者は救われん。」さて私の愛する兄弟たちよ、私はこれによって、人がもしも生ける神の御子が示したもうた模範に従って終りまで忍ばないならば、決して救われないことを知っている」(Ⅱニーファイ31:15~16)

これらの教えは、すべての人は義によって生きようと、人々の注意を促しています。これが神のみ前に帰ることのできる唯一の方法です。

ニーファイ人の予言者の息子であったコリアントンは、伝道中、愚かにも浮れ女イサベルをしたって行きました。父の悲しみは大きなものでした。息子の行ないに落胆したアルマは、叱責し、次のように言いました。

「……かれらはお前の悪い行いを見て私の言うことを信じなかった」(アルマ39:11)

確かに、模範には教訓以上の価値があります。

野球チーム、ミネソタ・ツインズの新しいマネージャー、ビリー・マーチンの言葉を引用してみましょう。「私達はミネソタ州を代表している。私は人々が私達を紳士として見てくれるよう望んでいる……アメリカの若者が見ている、そして私はそれを無視するわけにはいかない。選手諸君、良い模範を示してもらいたい。」私はこの意見に非常に興味をおぼえました。

著述家ソーは次のように理論づけています。「もし、あなたがある人にその人が悪事を行なっていると悟らせたいならば、自分で良いことをしなさい。人は見て信ずるからである。すなわち、他人に自分を見てもらいなさい」

アルベルト・シュバイツァー博士は、このような考え方を述べています。「模範は他人に影響を与えるすべてではない。それは一事実に過ぎないのである。」

「模範にはすぐれた力がある。我々が正しく歩めば、意識せずとも他人の行ないを改めさせることができるのである。」(スウェッチン夫人)

ニーファイの弟ヤコブは両親をさとして次のように言いました。「……あなたたちはよろしく自分の子供たちのことを考えて、自分が子供たちに悪い手本をのこしたから、どれほど子供たちの心を苦しめたかを考えよ。また自身が汚いからして子供たちも亡ぼしたならば、終の日に子供らの罪が自分たちにふりかかるかも知れないことをおぼえておけ。」(ヤコブ3:10)

この聖句を読みますと、この末日に主が両親に与えたもうた教えを思い起こすことができます。すなわち、私達は子供に福音の原則を教え、子供がバプテスマを受け、祈り、主の前に正しく歩み、安

息日を守りそれを聖くするよう見守る責任があります。(教義と聖約68:27~29参照)

マッケイ大管長はこのように述べておられます。「正直を教えて子供の前で不正直な行ないをすることは、ふるいに水を入れて湯を沸かすことと同じぐらい無駄なことである。」

両親にとって、自分達が清い生活をし、神の律法と戒めに従うことはどれほど大切なことでしょうか。そうすることによって、両親は生活の模範を示し、子供達に教えることができるのです。そうしなければ、子供達は大切な、生活上の個人的で複雑な問題や疑問を話し合えなくなってしまいます。

子供は両親の模範を基にして心の安定を得、判断し、知恵を得ます。

予言者ヤコブは、ニーファイ人を戒めて述べています。「……あなたたちは、優しくて感情の傷つき易い自分の妻の胸を張り裂けさせ、子供たちには悪い手本を見せてその信用をなくした。かれらの心の嘆きは神に聞えてあなたたちの悪い行いを訴えている。」(ヤコブ2:35)

けさ、デビッド O. マッケイ大管長はメッセージの中で子供に関して両親に時宜を得た忠告を与えられました。

ここで皆さんと共に、ブリガム・ヤング大管長が両親に対して、模範により子供達を教えよとの勧告を与えられたその話を読んでみたいと思います。ヤング大管長はこのように言いました。「……もし、両親が子供が真似るにふさわしく、天父の認めたもうような模範を絶えず示すならば、子供はそれに順応し、考えもその模範に従い、ついには、悪よりも善を望むようになるであろう。」

我々は子供に見せたくないようなことをすべきではない。子供に真似して欲しいと願うような模範を示すべきである。両親が子供に従順、良い行ない、良い言葉、にこやかな顔、やさしい声、輝きに満ちた目を期待しながら、苦々しくしかりつけることはないであろうか。これは何という矛盾であり、不合理であろう。

……両親はむしろではなく信仰によって子供をおさめ、良き模範により子供をあらゆる真理と聖きものへと穏やかに導かねばならない。

我々が我々の宗教に従って生活すれば、子供達は真理を愛するようになる。両親は子供達に『僕はお父さんが他の人を欺したり、他の人をおとし入れたりするのを見たことがない。お父さんが他の人のものをとったりするのを見たことがない。……お父さんは、正直で、嘘をつかず、清く、親切で、勤勉で、思慮深く、良いことをする人になりなさい』と言われるような道を歩むべきである。こういった教えは、いつまでも子供に残るであろう。」

聖典から模範について引用してみましょう。使徒パウロはコリントの聖徒達に宛てた書簡の中で次のように訓戒を与えています。

「これらの出来事は、わたしたちに対する警告であって、彼らが悪をむさぼったように、わたしたちも悪をむさぼることのないためなのである。また、ある者たちがしたように、わたしたちは不品行をしてはならない。……また、ある者たちがしたように、わたしたちは主を試みてはならない。主を試みた者は、へびに殺された。またある者たちがつぶやいたように、つぶやいてはならない。つぶやいた者は、『死の使』に滅ぼされる。これらの事が彼らに起ったのは他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、……わたしたちに対する訓戒のためである。だから、立っていると思う者は、

倒れないように気をつけるがよい。」(Ⅰコリント10:6, 8~12)

神の王国で教え導く者は、キリストが自分達の偉大な模範者であることを忘れてはなりません。ですから、主のおどろ園で働くよう召されたあらゆる役員および教師は、他の人々が福音の儀式と祝福に与るための福音の原則と標準と理想に従って生活してほしいと思う時、大きな責任を受け入れることになります。けれども、すべての役員教師が必ずしも自分の生活で、それらのことを実行しているわけではありません。

私たち指導者は、人々の求めている人、あるいは必要としているような人にならなければなりません。そうでなければ、その偽善は非難となって私たちに返ってきます。

バプテスマを受ける前に、その人はすべての罪を悔い改めるよう要求されます。この儀式を執行する神権者も同様に、自分のすべての罪が無い状態にあるべきだとすることは矛盾しているでしょう。これは福音のすべての儀式を執行する上にあてはまります。

自己の悪事を隠して、聖なる召しの精神に従って模範を示そうとしないことは、偽りであり、恥ずべきことです。私たちの地上での行動は天において記録されており、裁きの日が来ることを忘れてはなりません。この教会は真実の教会です。昇栄と永遠の生命を求める人にとって、この教会は価値があり、意味があります。この教会に何かの価値があるとすれば、それはあらゆる価値です。この教会なくして、昇栄も永遠の栄えもありません。

主は、主の再降臨の前に悪魔が自らの領土を支配すると啓示されました。私たちは、今日いろいろな形で起こっているその証拠の証人です。人々は変わることのない永遠の教えと真実の聖典をなおざりにしつつあります。文明化されたこの現代に住む多くの知識人は救い主と聖なる予言者たちがあらゆる時代を通じて強調している根本的な原則を、失ってしまったと考えています。この末日には「悪魔自らの領土を支配し」ますが、主は「主もまたその聖徒らを支配し、その真中にありてこれを統治せん。而して……この世に下る審きのために天より降り来らん」と約束されています。(教義と聖約1:35~36)

この聖句は慰めを与えてくれますが、救い主がこの約束を成就されるためには、主に従う人々が聖徒とならなければなりません。聖徒こそ、主が支配すると約束された人々なのです。

ここで、エノクとエノクの町の人々のことを思い出してみましょう。人々は、悪のはびこった状態にありました。人々は彼らの父祖の教えからはずれていました。エノクは、人々を悪の道から主へ立ち帰らせるというチャレンジを受け入れ、全力を尽してそのことを行なったので、神はエノクとその町の人々の体を変えたまい、神のもとへ受け入れたまいしました。(モーセ7, 8章参照)

キリストはユダヤにおける使命を終え、復活された後、アメリカの地に住む人々を訪れました。キリストが現われた後、人々は生活を完全に悪から善へと変えました。

ニーファイ第四書にこのすばらしい状態が記録されています。

「第三十六年には、ニーファイ人とレーマン人とを問わず、全地の住民がみな心を改めて主を信ずるようになったので、その間に何の不和論争もなく一人のこらずみな互いに正しく扱った。民はその心に神の愛を保っていたから、全国に何ら不和がなかった。また、嫉妬、争闘、暴動、みだらな行い、虚言、人殺し、および何らみだりがわしい行いがなかったから、まことに神が造りたまうたすべて

の民の中でこの民ほど幸福な民があるはずがなかった。」(Ⅳニーファイ2, 15~16)

今日教会にはこの二つの模範があります。私たちの務めや目的は昔の時代のそれと何ら変わるところがありません。私は私たちがそのように生活し、この責任を果たせるかどうか危ぶんでいます。この課題は果たし得ないように思えますが、もし、私たちが一個の民として永遠の富を熱心に求めて義に生きるならば、私たちの理想とする義の状態に到達することができます。

ニーファイ人とレーマン人のこの幸福な時代の後、彼らは再び次第に悪の道へ陥って行きました。そして、モルモンは息子のモロナイに宛てた第二の手紙で、人々が悪に陥り原則を見失っていることを強く説き、また悲しんでこのように書きました。

「ああ私の民のなんと墮落したことよ。かれらには秩序もなく慈悲の心もない。……民はあくまでその悪い強情を張ってみな同じように残忍であるから、老人も若い者も区別をせずに誰の命も助けず善い事はしないでそのほかのあらゆることを喜ぶ。それであるから全国の子供の艱難は何よりも惨酷で筆にも言葉にも表しにくい。……お前はこの国民の罪悪を知り、またかれらが道を守らず慈悲の心のない者であることを知る。」(モロナイ9:18~20)

歴史が始まって現在に至るまで、このことは繰返されているのではないのでしょうか。私は確かにその通りであると信じています。私たちの立場は、次にのべるように何世紀も前、モルモンが息子モロナイに述べたと全く同じです。

「しかし私の愛する子よ、民が強情であるにもかかわらず私たちは熱心に努めようではないか。私たちは一切の義しいことに敵する者に勝って神の王国で私たちが安息につくために、この肉体が待っている間にさねばならぬ努力があるから、もしその務めを怠るならば、罪のある者とされなくてはならない。」(モロナイ9:6)

福音の原則に従って生活し、正しい標準を維持し、義しい理想を固く持つことにより、良い模範の力を発揮させるよう努力することにより、私たちはこの世においても永遠の来世においてもよき報いを与えられるのです。

「原則を高く保つことは策略ではない。しかし、そこにとどまることは時にむずかしいことがある。」という言葉があります。

「キリストにより善と悪の律法が与えられたので、もはや、我々に標準がないということはない。……」(レオ・トルストイ「戦争と平和」)

私たちは、生活の中で正直、高潔、潔白、道徳、知恵の言葉を守ること、そして理想的な行ないに関するすべての啓示を実践し、模範とならなければなりません。そうしてこそ、他人が従うべき正しい模範者となることができます。

私たちの生活はこれらの基本的な資質と一体となっていて、私たちの愛する人、友だち、会社の人々に確信をもって、「私にならってあなたがたの見た私の行ないをあなたがたもみなさい」と言えますか。

これが私たちの責任であり、義務であり、チャレンジです。

神が私たち兄弟姉妹を祝福したもうて、私たちがいついかなる時にも力と勇気を持ち、手本となるような生活をし、主の前に真直ぐに歩み、あらゆる人々、特に私たちの子供や家族が見習うような模範を示すことができますように。謙遜になり、イエス・キリストの御名により祈り奉ります。アーメン

子供のページ

マークと海竜(かいりゅう)

マーベル ジョーンズ ガボット

マークははじめ、それを太陽で七色にかがやく虹(にじ)だと思いました。大きな波が行ったり来たりしても、その色はそのまま動きませんでした。マークは持っていた貝がらをおいて、波うちぎわまで近づいてみました。次に来た波のしぶきが砂をぬらすと、美しい色がかがやき、マークはそこに背の高い海竜が頭をもち上げて、岸へ歩いてくるのをみました。「こんにちわ／きみはだれなの？」とマークはききました。「こんにちわ／ぼくはマグレガノ二世(せい)マグレガノ一世のむすこさ」「なに一世だって？」マークはききかえました。

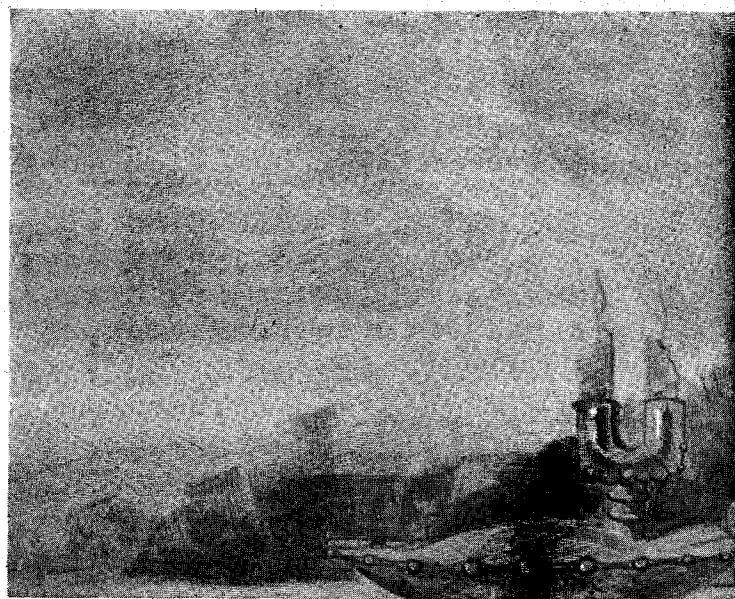
「みなみのうみのさいしょの海竜マグレガノ一世さ、ぼくたちはこのさんごしょうの下にスコットランドのお城(しろ)を持っているんだ。北の海岸から寒さやみぞれを逃れてながれついてから、ここにもうながいあいだ、ずっとすんでいるんだよ」「そうなの、とろできみのなまえは？」マークはずねました。「ああマックとよんでいいよ。それできみの



ソロ

なまえは？なにをしているの」海竜もたずねました。「ぼくはマーク、ブラウン先生のクラスの二年生なんだ。字(じ)は少ししかよめないけれど、じょうずにかけるよ。両親(りょうしん)はぼくをかわいがってくれるけど、お城にはすんでいないんだ」「そう、ところでいまなにをしてるの。」海竜はききました。「ああ、貝をあつめてるんだ、もみろの貝がらもみつけたよ、あれ、どこにおいたかな？」「さがすのをてつだってあげるよ」海竜はいいました。そこで、マークとマックとよばれる海竜は、太陽が西にひくくしずむまで、貝がらをさがしました。すると海竜が、「ぼくはもう家へかえらなくては」といいました。マークもかえらなければならないといって、二人はまたいつかあって話すことを約束(やくそく)してわかれしました。そのばん、マークはゆうごはんを食べながら、家族(かぞく)にこういいました。「きょう、ぼくは海辺で海竜にあって、いっしょに話をしたり、貝をひろったりしたよ。海竜の名はマックというんだ」お父さんはびっくりして、マークをみつめました。お母さんはおどろいてマークのひたいに手をあてて、ねつがあるかどうかしらべました。それから、二人は口をそろえていいました。「海竜なんているはずがないよ。マーク、きょう、学校でお昼になにを食べたの？」お母さんは、へんなものでも食べたのではないかと心配(しんぱい)して、ねるときにマークに、ショウガ湯をのませました。でも、マークはほんとうに海竜にあったのでした。すくなくともマークはそう思っていました。その晩、マックはさんごしょうの下にあるスコットランドのお城にもどったとき、お母さんとお父さんにこういいました。「きょう、ぼく海岸でマークという小さな男の子にあったよ。マークは二年生さ、ぼくたちはいっしょに話したり、貝をあつめたりしたのさ。」マークのお父さんとおなじように、マックのお父さんもびっくりしてながいことマックをみつめ、あわてたお母さんは、「さんごしょうの近くにある海草(かいそう)を食べすぎないようにいったでしょ。」といいました。お母さんとお父さんは、もう一度マックに「男の子なんて、そんなものいるはずがないじゃないの。」とねんをおしました。でもマックはたしかに、二年生の男の子にあったし、いっしょに話もしたのでした。いいえすくなくとも、マックはそう思ったのです。そののちまもなく、マーク一家(か)は、海とさんごしょうと美しい貝がらのあったところから、とおくはなれた町へひっこしました。マークはマックに、さよならをいうきかいがありませんでした。マックはときどき、海べに来てはマークをさがしました。でもマークはとおくはなれた町へひっこしてしまったのです。海は静かで、大きな波がよせてはかえすだけで、マークのすがたは見えませんでした。マークも、ときどきマックのことを思いながら、ひとりごとを言いました。「いつか、あそこへもどってみよう。そしたら海竜がぼくをまっているだろうな」たぶんマックもまっているでしょうね。

ダビデ王が死ぬ少し前に、息子ソロモンは祭司ザドクと予言者ナタンによって、王様になる儀式を受けました。ソロモンは主を愛し、父であるダビデ王のいいつけによく従いました。ソロモンが王様になって初めてしたことは「いけにえ」をささげるためにギベオンへ行くことでした。主の導きなしには、自分の偉大な王国を治めていけないことを彼はよく知っていました。そこでソロモンは一千もの燔祭(はんさい)を祭だんにささげました。その晩、「いけにえ」をささげた後、ソロモンの夢の中で主が彼の前に現れて言いました。「あなたに何を与えようか、求めなさい」と。「わが神、主よあなたはこのしもべをわたしの父ダビデに代って王とならせられました。しかし、わたしは小さい子供であって、……おびただしい民の中におります。それゆえ、聞きわけの心をしもべに与えて、あなたの民をさばかせ、わたしに善悪をわきまえることを得させ



モン王物語

てください」ソロモンはこう答えました。この答えは、主のみこころにかなったことでした。ソロモンは、主が次のようにお答えになるのを聞きました。

「見よ、わたしはあなたの言葉にしたがって、賢い、英明（えいめい）な心を与える。あなたの先にはあなたに並ぶ者がなく、……わたしはまたあなたの求めないもの、すなわち富と誉（ほまれ）をもあなたに与える。

もしあなたが、あなたの父ダビデ王の歩んだように、わたしの道に歩いてわたしの定めと命令とを守るならば、わたしは、あなたの目を長くするのである。」ソロモンは夢からさめて、エルサレムへもどりました。そこでは、すべての国民が若き王の知恵とさばきにおどろきの目をみはりました。ツロの王ヒラムは、ソロモンが主の御名で宮を建てると聞いて、たくさんのいと杉や香柏（こうはく）を送り、さらに建築を手伝わせるため、腕のよい職人の提供

ドロシー O. バーカー



を申し出ました。ソロモンは管理する役人を任命し、いよいよ大きな仕事が始まりました。その土地では以前にこのようなことがおこなわれたことはありませんでした。石を打ち、木を切り、金属を打ちながら、腕のよい職人はいっしょうけんめいに働きました。あまり仕事になれていない労働者たちも、職人たちに従って忙しく働きました。しかしエルサレムはとても静かでした。ここではハンマーの音も、のぎりの音も聞こえませんでした。そして、主の宮がすべてできあがると町に運びこまれ、静かに置かれました。七年ものきびしい労働の結果、その建物はついに完成しました。宮は石でできており、うらは木で、そこには、花の絵が彫ってありました。天使とシュロの木がドアというドアに彫られていました。内部の木の細工はすべて純金でおおわれていました。宮には、他の場所からさえぎられた神聖な場所がありました。入口の柱は、ざくろと百合の模様の明るい真ちゅうでできていました。さらに金の祭壇、彫刻をほどこした固い金のランプや、ろうそく立てもありました。ソロモン王は、主の契約（けいやく）の箱をダビデの町より主の宮へ、そして最も神聖な場所へと運ぶ行列に参加させるためイスラエルのすべての長老や、族長を集めました。祭司とイスラエルの長老たちは、ドアを次々と通って神聖な場所へおさめました。ソロモン王は国民の前に立ち、イスラエルの民を祝福しました。天に向かって手をさしのべ、大きな声で祈りました。「イスラエルの神、主よ、上の天にも、下の地にも、あなたのような神はありません。しかし神は、はたして地上に住まわれるのでしょうか。見よ、天もあなたをいれることはできません。ましてわたしの建てたこの宮はなおさらです。しかしわが神、主よ、しもべの祈りと願いを顧みて、しもべがきょう、あなたの前にささげる叫びと祈りをお聞きください。」

この宮に向かって夜昼あなたの目をお開きください。しもべと、あなたの民イスラエルがこの所に向かって祈る時に、その願いをお聞きください。あなたのすみかである天で聞き、聞いておゆるしく下さい。」

そこですべてが終わって、主は再びソロモンの前に

現れ、父ダビデ王がしたように私に従うなら、イスラエルにおけるソロモン王の座は、永久にたもたれるであろうと言われました。

ある日、荷物を積んだラクダと共に、見知らぬ人たちがエルサレムの門に近づいてくるのがみえました。彼らは、シバからソロモン王を訪れた女王についてやって来たのでした。女王は、ソロモン王の富と知恵について聞いていたので、それがすべて本当かどうか確かめにやってきたのです。ソロモン王はていちょうに女王をむかえ入れ、エルサレムのすべての栄華（えいが）をみせたのでした。晩さん会ではすべての食器が純金でできているテーブルに招きもてなしました。また、外国へ行った自分の大きな船について話して聞かせました。女王のすべての質問に答え、いろいろな香料、金、宝石といった女王からのおくりものも、喜んで受けました。最後に、シバの女王は言いました。「わたしが国であなたの事と、あなたの知恵について聞いたことは真実でありました。今見るとその半分もわたしは知らされていなかったのです。あなたの知恵と繁栄（はんえい）はわたしが聞いたうわさにまさっています。常にあなたの前に立って、あなたの知恵を聞く家来たちはさいわいです。あなたの神、主はほむべきかな。」女王は、自分のみたすべてのものにおどろきながらイスラエルを去りました。何年か経って、ソロモン王は多くの知恵や名誉を与えて下さった主にそむきました。彼がエルサレムに連れてきた外国のお姫様たちを喜ばせるために、彼女らの神をあがめたのです。彼女たちの神に香をたき、いけにえをささげました。そこで、ソロモンは再び主の声をききました。それは、彼がギベオンですっと以前に聞いた声でした。主はソロモンに「わたしが命じた契約を守らず、他の神をおごんだのだから、あなたから王国を取りあげるだろう。ただし、わたしのしもべダビデのために、一つの部族をあなたの子に与えるであろう」ソロモンは心をいれかえず、国と国民にもたらしめている多くの問題にも関心を払わずに、邪惡な道へ進んで行きました。あのようにはなやかだった統治に比べ何という悲しい結末でしょう。

誓約を守るときに人と神は

互いによき パートナー となる

ロウエル L. ベニオン



ある日曜学校のクラスで、バプテスマ、聖餐、結婚、その他の誓約の性質について活発な討論が進められている時、一人の会員が言いました。「私には、これらの誓約を守るのに、人間の方が主よりも大きなものを課せられているように思えます。ですから、私達は二番目とはならないのではないですか」。いうまでもなく、彼の質問は関心と呼び、すぐに反応が返ってきました。

どんな誓約を守るにも、人は本当に自分の感情、思い、行動を集中する必要があります。たとえば、バプテスマを受ける準備をするために、人はけんそんに悔改めた心と、主イエス・キリストを信じる信仰を持ち、自分の罪を悔改め、終りまで仕えることを決心し、いつでも、どんなことでも、どんな場所でも喜んで神の証人とならなければなりません。これは大きな一つのきまりです。そのかわり主は私達に罪の許しと、聖霊の賜と神の王国に入る許しを約束してください。

以上の条件を守らなければならないとはいえ、私達は神と誓約を結ぶ上で依然として第二の位置に留まっているのです。まず第一に、ある意味で父であり、愛と恵みと英知に満ちておられる神は、私達が神に捧げねばならないものよりもはるかに多くのものを与えて下さっています。私達に神ほどの寛大な心と知恵があるでしょうか。

第二に、福音の中に与えられている誓約は、当事者が自分の利益を守る義務を負う取引上の契約のようなものではありません。平和会議で長期交渉の末生まれる国家間の条約とは、さらに違います。宗教的な誓約とは、自ら進んで、当事者が相手の利益を計って結ばれるものです。

ベンジャミン王はニーファイ人への別れの言葉の中で、どんなに努力しようが、人は主の寛大な心にかなうことはできず、いつも主にとって「ふつつかな僕」である、とはつきり述べています。彼の

言葉は論理的で興味深いものです。はじめに、神は私達に生命を与えて下さいました。それから、私達は神の誓約を守る時に、神が人に与えられた最大の賜である永遠の生命を約束されています。しかしそれがすべてではありません。私達を守るようにいわれている戒めは私達のためになるものであり、戒めに附随する当然の報いをもたらします。この最後の点は、説明する価値があります。

私達が従うべき福音の律法のうち、現在と永遠にわたる生活の規範でないものは一つとしてありません。たとえば、けんそんとは素直で、心をいつも神や同胞、まわりの世界に開いておくことです。それはそれなりの報いをもたらします。悔改めるとは、罪のない状態になり、正しいと思うことと自分の行動を一致させることです。それは勇気と自分を尊ぶ気持ちをもたらし、恐れと不安をなくしてくれます。真に隣り人を愛するとは、完全に喜んで自己を知ることなのです。私は、安息日がそうでないように、人のために作られたものではない福音の原則を考えることができません。

私達が戒めを守る時に遭遇する唯一の危険は、たいてい私達が人に戒めを守るようにと勧める時に起こります。その証拠に多くの予言者は迫害にあいました。バプテスマのヨハネは首を切られ、イエスは十字架にかけられました。しかし予言者というものに少しも関心を持たない現代では、私達普通の会員がキリスト教の原則を実践しようとする時、危険に遭遇するようなことはありません。その原則は平安への道なのです。

繰り返して言いますが、私達は二番目以上になることはできないのです。主は御自身の生命を与え、栄光ある未来を約束されました。私達は、私達を守るすべての戒めと、果たすすべての誓約に対して直ちに、祝福と十分な報いを受けるのです。



教えることは 思いと人を 結ぶかけ橋

ジーン T. クンツ

有 能な日曜学校教師とは、レッスンの主題と、グループの子供一人一人の欲求および個性を一致させることのできる人です。教えることはかけ橋となります。それは個人とその思いを結ぶかけ橋です。この橋がはっきりと示されれば、教師と生徒の間のやりとりはうまくいきます。教師と生徒は同時に学び、双方の行動はそこで行われることから影響を受けます。

レッスンの準備

6歳の子供はあまり静かにじっとしているものではなくむしろ絶えず動き回り、おしゃべりをし、何かに熱中したりグ

ループ意識を持ちいろいろなことを知りたがるものです。いろいろな経験をした子供もいれば、限られた場や考える機会しか持たなかった子供もいます。イスラエルに旅行したことのある子供は、教師がイエスの話をする時に、イエスが教えたその場を思い浮かべることができます。自分の家から離れたところにあまり行ったことのない子供は、イエスとその教えについて違った想像をします。比喩的な言葉をあまりよく理解しない家庭に育った子供にとっては、イエスの足跡をたどるということは、文字通り「人の足跡をたどるゲーム」を意味するのです。

教師として何をするか

クラスで教える子供たちをよく理解してください。子供の背景と、彼らの得た経験を知って下さい。互いに心を通わせあう友達のようなつながりをもって下さい。あなたのまわりやワード部、家庭の6歳の子供のあるがままを認めてあげて下さい。こういうことを知ってこそ、心のかけ橋は生まれるのです。

おそらく良い教え方の最も重要なことは、教えている時に子供たちをよく見ることができるよう余裕ある準備だと思います。声や言葉同様に、子供の目をよく見るのが大切です。生徒をよく見ていれば、教える時のキッカケがつかめやすし、進度を変えたり、繰り返す必要のある時はそれがわかります。子供の落ち着きがなくなったら、歌を歌ってペースを変えたり、聖句を皆で読んだり、ちょっとした活動をするとか小さな子供のグループだけにうまれるクラスの混乱を鎮めるのに役立ちます。

例をあげること

レッスンの目的は、アメリカに住もうがヨーロッパに住もうが、福音の原則はいつもかわらないことを子供に認識させることです。福音の原則は、私達がポリネシア人であろうとスカンジナビア人であろうと、たとえどこにいても私達の生活にあてはまるものです。

有能な教師はレッスン準備の初めから、レッスンの目的を明らかにするためにどんな質問をしたらよいか予想できる人です。会話を通じて子供にその考えの確かなことを理解させることができます。たとえば、

「福音の原則の一つは、家庭、隣人、友人に親切にすることです。他の誰かにいつこれをしてあげたらよいかわかる人はいますか」

はずかしがって答えられない子供がいたら、教師は子供たちがすでにやったことについて言うてみて下さい。

「とおる君、あなたは、福音の原則を実際に行ないましたね。けさ先生のために、フランネルボードを教室に運んでくれたでしょ。他の人に親切にしてあげたり、お手伝いをするには、イエスさまの教えに従うことになりますね。」そのうちに、はずかしがりやの子も、自由に自分の経験を発表するようになるでしょう。

グループの中で落ち着かない6歳の子も、レッスンの中で、すばらしいけれども少し見当違いと思われる意見を発表する

時があります。自分の意見が受け入れられたり、レッスンの題材にとりあげられたりすると、子供は消極的な行動をやめて積極的な反応を示すようになります。そうして、話す前によく考えるようになり、グループの中にあっても落ち着いた子になってゆきます。すべての子供が、いつも自分とクラスメートの学習に対して責任を持つようになることを目的としなければなりません。

日曜学校教師が、イエス・キリストの足跡をたどることについて話していると、だしぬけに一人の生徒がこんなことを言いました。

「イエスさまの足は大きかったの？」

教師はこの質問をとりあげて、答えました。

「イエスさまの足跡をたどるということは、イエスさまのように生活することなのです。イエスさまは完全な御方でしたから、イエスさまの足跡つまりイエスさまのなされたことは私達にとって大きな目標となりますね。皆さんには、イエスさまの生涯というよいお手本がありますから、先生は皆さんが立派な人になると思います。」教師がその子供の質問をとりあげたので、他の子供たちはみんな静かに聞いていました。この教師は、ばかげていると思われる質問も、レッスンに使ったのです。

日曜から次の日曜までは、かなり長いものです。子供が何か家に持ち帰れる物があると、その一週間に思いがけない勉強ができることがあります。レッスンに関連ある短い詩を渡して、髪の毛をとかす時に使う鏡にはっておくように言うといいでしょう。たとえ読めなくても、そのちょっとした時が日曜日に習ったレッスンを毎日思い起こさせてくれるでしょう。

要約：どのように教えるか

1. テキストを見なくても、自信を持ってレッスンができるように、十分な準備をすること。子供から目を離さずに、教えるキッカケをよく注意して見ていること。
2. 子供の関心が深まったら、少しの間、レッスンの題材か話について時間をとること。落ち着きがなくなってきたら、話を変えて、新しいことを紹介するか短かい活動を計画すること。
3. はずかしがりやで静かな子供に、教師にとって、またレッスンを成功させるためにその子が大切な人であることを知らせること。その子供の名前を使うこと。そ

の子供が必ず立派にやれそうな責任を与えること。

- 4, 生徒を6歳の子供として認めること。そうすれば、あなたとクラスの生徒は自由に気持が通じあいます。教師も生徒も、福音について学んでいることを忘れないこと。
- 5, 子供が家に持って帰る物を与えること。日曜日だけでなく、一週間全部がレッスンを教える場となります。

自分の教え方を評価する

日曜学校の終りにはいつも、教師は目的を果たしたかどうかを評価する必要があります。子供は福音の原則を学んだでしょうか。レッスンの成功は何を基準にしたらよいのでしょうか。

授業時間に子供の関心と呼んだ点があるかをチェックすることは、参考になります。

子供が喜んで復習の話し合いに参加すれば、子供がレッスンの概念をよく理解したことがわかります。

レッスンの内容を絵に表現させると、子供が何を学んだかがわかります。

これからの日曜学校では、何を教えたかをチェックするだけでなく、知識をさらに豊かにするということも考えて下さい。

日曜学校が成功したかどうかをチェックする一番よい方法は、教師がこう自分に尋ねてみることです。

「けさ、この子供のグループを教えたことから、私は何を学んだのだろうか」

今月の前奏曲



10月のサクラメント・ジェム

大人日曜学校

「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」

(ヨハネ3:5)

子供日曜学校

「私は主が命じたもうことを行って行う。」

(1ニーファイ3:7)

女性らしさを

教えるには

アルバート L. ペイン

アルバート L. ペイン氏は教会学校制度のセミナリー、インスティテュート部門の担当記者であり、青少年コリレーション委員会のメンバーである。またかつては、YMMIA中央管理会会員であった。

花

屋さんにいた青年は、背が高く、目鼻だちのすっきりした真に男らしい感じの人でした。何かを待ちながら彼は行ったり来たりしていました。カードに何と書こうかといろいろ思いめぐらしていたので、店員が花束を持って彼の意向を尋ねに来た時、彼は一瞬ためらいました。じれったがっている店員は、早く決めてもらおうといろいろな言葉を提案しました。「愛をこめて」「親愛なる者より」「心から愛をこめて」と店員が次々に提案する言葉を、青年は丁寧に断りながら、最後にこう言いました。「すみませんが『ハッピー バレンタイン』と書いて下さいませんか。」

一人の若い有能な女性秘書が、夫の牧場経営を助けるために、会社をやめたいと雇い主に申し出ました。彼女の夫は、大学教授としての教育を受けていたのですが、少年時代からの夢に戻ろうと決心したのです。このことに関して、彼女の気持ちはどうかと尋ねられた時、彼女は、夫も自分も共にこのようなことをしばしば考え、夫を幸福にするものはたとえなんであっても、またそれがどこであっても、自分の幸福につながるものだと言いました。

ここにのべた二つの話は、若者が自分以外の人々に対して

とる態度を、非常に明らかに示しています。中には、そのような立派な態度がどこからでてくるものかと、深く考える人もあるでしょう。いったいどのようなしつけと経験を通して、あの青年はガールフレンドに花束を送ろうと決心したのでしょうか。またあの若妻に、夫の幸福が自分の幸福であると考えさせたものは何だったのでしょうか。さらに大切なことは、大人はいかにしたら、若者に影響を与えてこれらの態度を促すことができるのでしょうか。

福音の教えは、私たちがこれまで人の永遠の性質と価値を理解するうえで、大きな助けとなってきました。しかし、私たちは人間として、福音の知識を必ずしも意味のある態度や行動に現わすことができるとは限りません。私たちは教える方法を種々試みてきましたが、その方法の中にはあまり効果のないものもあることを知りました。

たとえば、不注意な運転手は、その結果起こる危険な状態を映画で見たとしても、あえて慎重な安全運転を励行するようになるとは思われません。医師の忠告によって、あるいは日曜学校のレッスン、神学、MIAによって、必ずしも純潔が保たれるとは限りません。若い人々は、各々のレッスンの中には、いかなる理想も見ることができないのです。

人の態度というものは非常に奥の深い、いろいろなことに関係のあるものですから、それを教えることはめんどろで、また非常に長い時間がかかります。

ガールフレンドに花を送ろうと考えた青年は、他の状態にあっても、女性に対して思慮深く、思いやりを持つ人であろうと思われます。あの青年は、女性というものは男性とまったく違った感じ方、考え方をするものであるということを、よく心得ているにちがいないと思う人もあるでしょう。またある人は、その青年を、交通規則を正しく守って運転するドライバー、芝ふに入らないで歩道を歩く歩行者、あるいは人との交際で礼儀正しく不快な感じを与えない友人のようであると考え、それらのことは彼が一人で学び経験を通して得たものではないと思うことでしょう。

またある人は、夫の望みや感情を思いやり、自分自身の計画を夫のために放棄するほどの勇気と愛を持った妻は、結婚するずっと以前から、他の人々の感情をよく理解することを、学んで知っていたのだと結論することでしょう。

女性の理想像ということに関して、若い男女をより高い行ないへと導く理想や態度を大人はどのようにしたら教えることができるのでしょうか。

第一に、この理想を他の多くの事柄と関連させねばなりません。そして第二に、多くの経験を体得させることです。

女性らしい態度は、経験によって生まれます。少女が成長するにつれて、女性らしいことを多く経験すると、自分自身の中に真の女性らしさのあることに容易に気づくのです。編

み物、縫い物、生け花、室内装飾をする少女、良い音楽、文学の与える影響を知っている少女、家庭の中で母親の手で作られたいろいろな物に目をとめる少女、これらの少女のうち十中八九までは、成長して真の女性らしさを心の中に感じ、淑女としてふるまい、人々にもそのように扱って欲しいと望むのです。

少女たちが、美、調和、礼儀正しさを意識し始め、その特質を自分の生活に生かす可能性を知ると、彼女たちは美しくなるように、慎ましやかに見えるようにと、ただ単に流行を追うだけでなく、いろいろな点を考慮に入れて衣服を身につけるようになるのです。このような少女たちは成長するにつれて、次第に洗練された女性としてめざめてゆくのです。

粗野で、むこうみずで、この世に何か貸があると考えているような利己的な男性をみる時、私たちは彼らが、女性というものは男性の目を楽しませるために造られたものだ位にしか考えていないだろうと思うのです。そのような態度は、女性に関してたとえどんな教養を受けても、変わるものではありません。自分が全世界の中心であって、他のものはすべて自分の楽しみのために、自分に仕えるために造られたと考える少年は、自分を犠牲にして他の人に仕えなければならないと考える時、大きな問題にぶつかります。他の人の感情を害し、怒らせることを何とも思わない人は、素直に礼儀作法に従うことが困難に思えるのです。道徳的価値に無感覚な少年は生涯のいかなる理想も容易に理解することができないのです。少年たちは、自分自身に、家や庭に、衣服に、そして他人に与える自分の印象に誇りを持つように教えられなければ女性に対する態度を変えることは非常に困難です。彼らに女性の理想像を教えようとするなら、私たちはまず他のことを教えることから始めなければなりません。

その理想を教えることは、決して容易ではありませんが、もし男の子たちが、芝刈り、聖餐のパス、宿題、趣味など自分のすることに誇りを持たなければならないことをすでに知っていれば、非常に教えやすくなります。彼らはまた、自分の外見や他人に与える印象にいつも心をとめるように教わるべきです。受けたものには心から感謝するように、また他の人が必要としているものや望みに思いやりを持つように教わるべきです。言葉を変えて言うならば、弱気で利己的な男性、あるいは標準に従順であること、他人のことをよく考えること、教養を身につけることなどを少しでも教わっていないような男性に、女性の理想像を教えることはほとんど不可能です。

若い男女は自分自身の価値、他人の価値を認識しなければなりません。そして、女性の理想像についてよく理解するためには、人生の目的を価値ある高いものとしなければなりません。

せん。彼らは物事を立派に為し、またどんな試しにも背を向けてはならないと戒められることによって、自分で自分を訓練することを学ばねばなりません。彼らは親切な心を持って奉仕することにより、人々の持つ価値を学ばなければなりません。また自制することによって、自尊心、個人の威厳、品位を知らなくてはなりません。これらのものがいっしょになって土台ができ、教師はその上に、若い人々にとって意味のある、女性に関する概念を築きあげていくのです。

女性の理想像は自尊心に基づいています。それはあくまでも理想像であって、私たちの目に映るものは不完全なものです。しかし男性女性どちらも共に、女性とは、上品、優雅、美、柔和、寛大、愛の権化であり、生活の霊的要素であって欲しいと思っていることは確かです。女性とはそのようなものであると理想像をそのまま受け入れる男性は、ドアに近づく女性に真の価値があるのかどうかをよく考えないでその理想像だけをみてドアを開けてしまうのです。またこのような理想を受け入れ、それと調和した生活を営もうとする女性は、男性がそれに気づかないかのように、まったく同じような態度で自分たちに接するのを見て失望するのです。

女性の理想像を教えるときのもう一つの問題は、じかに学ぶことによって経験が得られるようにすることです。そのような経験は、観察あるいは実際の行動を通して得られるかもしれません。もしその経験が役に立つものであれば、すぐに生徒の年令に合わせて応用すべきです。若者は実際に目で見耳で聞くことのできる模範が必要です。恵まれていれば、彼らはそのような模範を自分の家庭の中に持つことができます。また家庭の中で女性とはすばらしい尊敬に価する人であるということも教えられます。家庭の中に良い模範がない時、若者はワード部や支部の中にある他の良い模範を指摘してもらうべきです。このようにどちらの場合も、模範となる人は大人であって、若者は見聞きた事柄を、自分の立場にどのように応用していくか学ぶ必要があります。また、その理想を実現するための機会が与えられねばなりません。そのような機会には、女性らしさあるいは、礼儀正しさ、エチケットなどについてのレッスンを通して与えられます。物事を上品に、正しくなしているという感じが得られるように、レッスンの一部としてロール・プレイングをとり入れるとよいでしょう。レッスンの後で、生徒に学んだことを日々の生活に応用させるために、十分に吟味することが必要です。

結局、若者は教訓と模範によって女性の理想像を教えられただけでなく、生活の中でそれが他の大切な価値あるものに対して持つ関係に気づかなければならないのです。その理想が失われるなら、彼らは自分自身不利な立場に立つことを知るでしょう。



私に何を 望まれますか

扶助協会中央管理会会員
アフトン W. ハント

ある人が、主イエス・キリストに「私に何を望まれますか」という質問をしたと記録されています。その時サウロに与えられた答えは、複雑なものでもないし、理解に苦しむものでもありませんでした。サウロは、ダマスコの町に行けば、彼のなすべきことが告げられるだろうと言われました。サウロが、新たな信仰のもとにこの簡単な教えに従ったことの報いは大きく、神と人類と彼自身に対する限りない奉仕となって現われました。

私達は自分の人生をどうしたらよいのでしょうか。罪と正義の争いの中で、いつも危機と不満に直面する私達とその家族は、予知できない未来のために力を養っておかなければなりません。そして「私に何を望まれますか」と尋ねるのです。

これは、ノーブーの女性達が福音の成果をあげるために、もっと奉仕をしたいと予言者ジョセフ・スミスに相談した質問と本質的に同じではありませんか。ジョセフ・スミスの答えは、複雑でも理解に苦しむようなものでもなく、それは奉仕、進歩、御自身の娘達の目的ある人生に対する天父の計画をあきらかにしたものでした。予言者は靈感によって、姉妹たちの奉仕が知的、霊的成長につながり、いつの時代にも人生のチャレンジに立ち向う備えができるための方法として姉妹たちを組織しました。

この偉大な計画に従って、扶助協会は世の同様な女性の組

織の中であって、首位を占めています。ですから、扶助協会と活発なその会員の働きを知らない多くの人々は、そのことを知って驚いています。

身近かにあって、天父のプログラムに実際にたずさわっている私達は、このプログラムをありふれた機会として受け入れたり、この祝福を天父のプログラムの霊的なよりどころとしないでよいのでしょうか。隣り人や友人は私達を通して、扶助協会から与えられている機会を認識しているでしょうか。

教会のどのステーク部にも、末日聖徒の女性でありながら私達と同じ信仰を持たない人や、扶助協会の大きな影響力を知らない人がいます。私達は自分の生活で、扶助協会の建設的な力を示すために、あらゆる機会を利用しているでしょうか。生活の模範とすべきものは聖書の中しかないと言われてきました。

扶助協会の姉妹である私たちの行ないは、どんなに小さな行ないでも、私達の生活を見ている人に大きな影響を及ぼしています。

私は最近、標準を高め、模範を通して人に影響を与える点での扶助協会の可能性に注目しています。オーストラリアの一女性が、教会の広報部を訪問して、いわゆる「モルモン教会」について教えてほしいと尋ねてきました。彼女の説明によると、自分は何も知らないが、オーストラリアの友達から、「モルモン教会に入って」いて、「教会の女性の組織に所属している」ということでした。彼女は、ほんの短い期間で、この組織が友達とその人生の目的を完全に変え、他の人に対する行ないと態度が正反対になったと言いました。彼女が最も強く感じたことは、その友達が人生でめったに見られない幸福を享受しているということでした。この訪問者は、合衆国を旅行する間、この組織について本当のことを知るために、特別な努力を払ってソルト・レーク市にやって来たと言いました。何年にもわたって扶助協会の姉妹に与えられている模範と指示は、私達が今日の生活でのチャレンジを受ける備えをする時にもあてはまることを知って、私達は勇気づけられます。私達の歴史を通じていつもそうだったからです。私達が互いに分かち合うべきこのすばらしい祝福に対して、どのような感謝をしたらよいのでしょうか。それは私達が毎日の生活に霊的なあかりをともし、真理を求める人々を照らす灯台となるという機会を与えてくれます。私たちが、「主よ、私に何を望まれますか」と心の中で求めているすべての女性に、はっきりとした答えを与えるような生活ができますように。

大切な教訓

— ゲイリー E. ボー —

それは私が初めて狩に行った時のことでした。当時私はまだ10歳でしたが、決して忘れることのできない教訓を得ました。金曜日に、町から車にのって3時間ほど、はてしなく続くような長い道のりを行くと、やっと山の頂上に着きました。10月のよく晴れた日で、よもぎの匂いにさそわれたのをおぼえています。山のひんやりした空気が、午後の明かるいひざしに暖められ、大好きな秋のいろどりがシーンとした峡谷に明かるく映っていました。

その夜は一睡もできませんでした。次から次へと想像がはたらき、少年の夢と想像があふれてきました。父と一緒に森の中を歩きまわったり、荒野で一晩中キャンプを張ることなど、考えるだけでわくわくしてきました。広げた手よりも大きな角を持った雄鹿が、倒れた木や小さな木々をとびこえてビロードのような松の木を通りぬけて走ってくるというような子供っぽいことを考えていました。その短い夜の間に、私の心には無数の冒険がどんどん浮かんでくるのでした。

土曜の朝は、まだ寒い三時半ごろから狩が始まりました。外はまだ真っ暗でしたが、私の心はうきうきしていました。卵やベーコンは全然おいしくなく、大好きなあたたかいチョコレートもこんなにまずいと思ったことはありませんでした。

あっという間に朝が過ぎてゆきました。私はほんとうに父を誇りに思っていました。私にとっては、父は世界中で一番偉い父であり、すばらしいハンターでした。まだまだ昼にならないというのに、父は鹿を2頭もしとめました。いろいろなことが起こってわくわくするような朝にひきかえ、午後は何も起こらないので長く単調に思えました。前夜寝ていないのに、朝の疲れと秋の暖かいひざしのために、私のいたずら好きが大きく頭をもたげてきました。

私は父より少し前方100メートルほど下ったところにいました。ちょうど茂みの通りぬけて開けたところへ出た時、小さな谷から私達がいる峡谷の方向へライフルの音が2発する

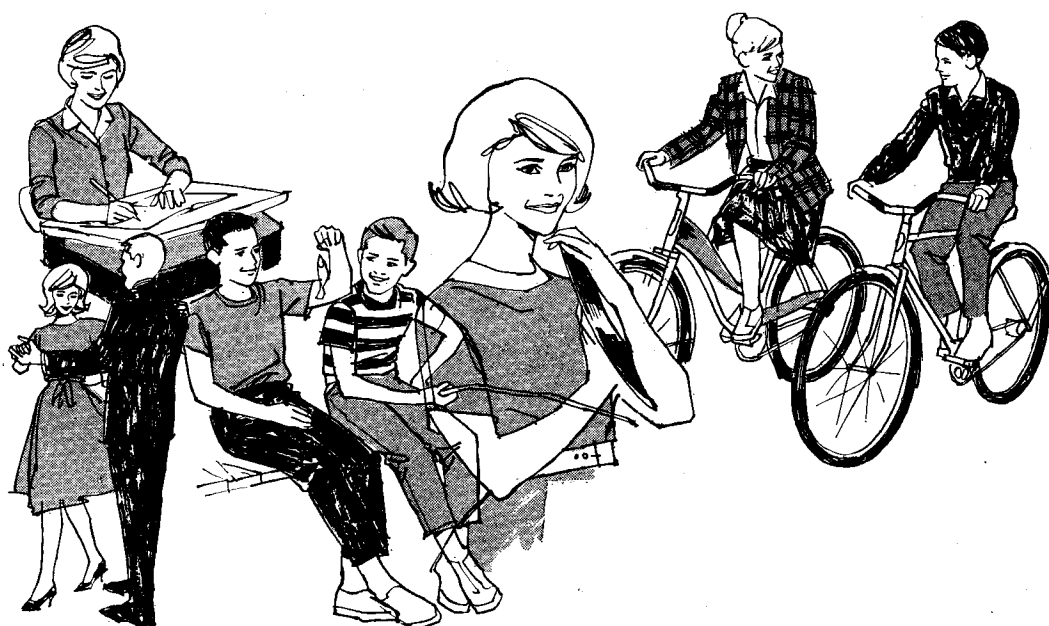
どくこだましました。私は射たれたように倒れました。

死んだふりをして横たわりながら、私はじっと聞いていました。父が私の名前を呼んでいるのが聞こえましたが、手足も動かさなければ言葉も出しませんでした。テレビに出てくるカウボーイでも、私ほど上手に死んだまねはできなかったと思います。私から何の答えもないので、父はライフルを落して、私の方へフルスピードでおりて来ました。父が20メートルくらい前のところへ来た時に、私は分別のない子供だけがするように笑いながら飛び起きて、無邪気に父をからかいました。「はは、ちょっとふざけただけだよ。お父さんをうまくだませたね」

父の顔は、苦しみと恐れと安心感が一度に全部入りまじったようでした。すぐに私は間違ったことをしたのがわかりました。確かに、私は父を傷つけたのです。こんなに残酷なことはそれまでしたことがありませんでした。父の顔はほんとうに苦しうでした。父は私の前にだまってじっと立っていました。私をたたこうか、抱きしめようか、考えているのがよくわかりました。

その時ほど悲しく、後悔の気持が一杯で恐ろしく思ったことはありませんでした。どのくらいそこにじっと立っていたか、はっきり覚えていません。ついに父はそっとひざまづいて、大きな腕を私の小さな肩にかけました。

私は父の首に抱きついて泣き始めました。「ごめんなさい、ごめんなさい」と繰り返しながら泣きました。本当にけんそんな心と悲しみがこみあげてきて、その時も絶対父を苦しめるようなことをするのはよそうと決心しました。その時本当に、私は決して忘れることのない大切な教訓をはっきりと学んだのです。その教訓とは「あなたの父と母を敬え」です。それから、私はいつも両親を愛し、敬い、従うことを誓い、軽率な行ないや悪い行ない、怠惰な行ないをして両親を傷つけたり、迷惑をかけないことを誓いました。



若人が絶えず下品、不敬、不信心、奔放な愛、その他悪の力と戦わねばならない時代にあって、一人の女子学生は、勇気を持って立ち向う人の少ない変わりつつある社会において、異なった人になろうと仲間に訴えている。

勇気ある人は少ない

リンダ スー ローパー

「己れを知り、それに基づいて行動せよ」これはマッケイ大管長の特に教会の若人に対する訓戒ですが、すべての末日聖徒にもあてはまる言葉です。

私達が日常の生活を営む上において、私達と同じ信仰を持たず、生活の標準や価値観が全く違う人々と交際する機会がたびたびあります。

ヒュー B. ブラウン副管長はこのような言っておられます。「一人になった時、あなたはどんな交際をしたいのか決めておきなさい。」

もし、私達がいつも下品なことを言ったり、神に対する不敬な言葉を使う人々を友達に選んだとしたら、そういった習

慣をすぐに身につけることでしょう。マタイ伝12章34節には、このように書いてあります。「心からあふれることを、口が語るものである。」言葉を変えて言いますと、人は普通考えていることを、話すものだということです。こういう言葉があります。

下品というのは、空っぽの頭から来る。上品な言葉では、自分の言いたいことをよく言い表わせないから、あえて下品になるようなことはばかっている。だから正しい言葉を使いなさい。ばかげたことを言ったり、聞いたりしないように。

いわゆる友達



私達は毎日の生活で大切な決定を下さなければなりません。私達のする決定のうちで一番大切なことに、絶えず新しく変っている服装のスタイルや、道徳に関するいろいろな論点に対し、どういう見方をしたらよいのかということがあるかも知れません。ここでも、友達を選ぶことが重要な要素を占めます。もし、だれとでも自由に恋愛したいと思っている友達を選べば、私達もすぐにこれらのいわゆる「友達」になってしまうでしょう。

人はラジオのようなものです。ラジオには真空管があり、私達にもあります。すなわち、

- 1, 聖餐会に出席するという真空管
- 2, 什分の一（と建築資金）を支払うという真空管
- 3, 聖典を勉強するという真空管
- 4, そうして中でも一番大きいのは、道徳的に純潔を保つという真空管です

私達は絶えず自分が何者で、どんな人になろうとしているのかという電波を送っています。

今日多くの人々は、「新しい道徳」論について好んで議論を戦わせます。ある教会の重要な地位にいる人々でさえ、いわゆる「新しい道徳」について大そうな問題として話をしています。けれども、あなたがたは知っていますか。性道徳の標準はただ一つしかなく、主はそれを「あなたは姦淫してはならない」（出エジプト 20:14）という言葉で要約されていることを。また、こういう言葉でも言えるでしょう。「あなたは不品行を行なってはならない」と。けれども、聖徒達に「不品行な者たちと交際してはいけない」（I コリント 5:9）

とも主は言われました。では、どんな友達と交際すべきでしょうか。

昨年の春、ソルト・レークとオグデン地域の全末日聖徒女子学生のための大会が、テンプルスクウェアのタバナクルで開催されましたが、その席上、N. エルドンタナー副管長は、「後で後悔したり、悲しんだりするような時間の楽しみ方をしないように」と訓戒を与えられました。

高い道徳の標準を持った人々を友達に選べば、私達も自分の高い標準を維持できるでしょうし、楽しく過ごす時間も、良い思い出となるでしょう。

また同じ大会で、私達が助けと力を得る一方法として、毎朝主の導きを求める祈りを捧げ、夜になったら主に報告しなければならぬことを、一日中忘れないで行動しなさいという話を聞きました。

自分にふさわしい人と結婚しなさい

人生における自分自身の価値を決める時です。そうすればその価値を維持するために、信仰と勇気とスタミナが必要になってきます。

仲の良い友達に自分の考えを述べる時間を作って下さい。親しい仲間から人生の伴侶を選びたいと思いませんか。

親しい交際をして、デートを重ねてゆけば、結婚するようになるでしょう。もし、私が永遠の結婚をするように計画していたら、この目標に向かって努力している人々と交際しなければなりません。喫煙、飲酒、口ぎたなくののしり、純潔でない人は、たった一晚で改心して、私と神殿に行って結婚しようとするものではありません。永遠の結婚とは、そのような人のためにあるのではないのです。そして、私の友達がこのような人々であつたら、私も神殿結婚をしたいなどという計画をすて去ってしまうでしょう。悪い人とか悪い事に接触していれば、必ずあなたもその影響を受けます。次の言葉はそれをとてもよく表わしています。

頭の上に小鳥がとまるのを追い払うことはできない。けれども、巣を作らせないようにすることはできる。

ペースメーカーになりなさい

両親や友達が私達のために祈ってくれる祈りに、主が私達を通して答えて下さるように生活しなければならないとハロルド B. リー長老は述べておられます。

また、次の言葉は、私達が末日聖徒として、どのように行動すべきかについて指摘しています。

多くの人々は、周囲の人々のようになろうと懸命の努力をしている。純潔で善をなそうと努力している人こそ、本当の努力をしているのだが、そういう人はほとんどいない。

私達は、行ないの標準を示すペースメーカーになることができます。私達は、人々の間に立ち、勇気を持って人々と違った数少ない人になることができます。

“心 を 一 つ に”

日本沖縄伝道部長会

岡 崎 鈴 木 神 崎



日本沖縄伝道部誕生一周年を記念して

兄弟姉妹たち、

全宇宙のなかで、神さまにとってもっとも大切なものは他ならぬ私たち一人一人であります。教会堂や組織、プログラム、誠命などは重要ではありますが、それらはあくまでも人の救いのために備えられた手段にすぎません。このことは、私たちに何を教えているのでしょうか。一つの観点からしばらくいっしょに考えてみましょう。

神さまが心から望まれていることは、まことの娘、息子である私たち一人一人の幸せであります。すなわち、日常生活にあって、私たち一人一人の心が平和であり、魂が喜びにあふれ、満足していることであります。そして、信仰を固く保ち、お互いに助けあい励ましあって、試練に打ち勝ち、おわりの日には神の御前に高くあげられることであります。このように神さまの望まれるようになるには人はなお、イエス・キリストの福音を聞かねばなりません。そしてその後、教会の会員となってからもつづけて、教え、積み、勧められ、励まされ、いろいろの親切な世話を受ける必要があります。そうでなければ、毎日を心楽しく喜びにあふれて生活し、終りの日まで耐え忍ぶことはたいへん難しいことであります。このように考えるとき、耳にタコができるほどに聞く言葉とはいえ、伝道とフェローシップは人の救いにとって鍵となるものであることがよくわかります。

いま、ここに一つの支部を想定しましょう。この支部には100人前後の活発会員がおり、種々のプログラムが活発に行なわれ、これに参加する人々は多大の祝福を受け進歩しております。一方、登録会員数は宣教師の努力と相俟って、毎年40～50人増えつづけました。ところが、活発会員数は100

人の水準を一時的には越えることがあっても長期的には変わりませんでした。この支部の評価は一般によいものでした。しかし、さきに述べた「一人一人が大切」という観点から考えるとどうでしょうか。入ってくる人がたくさんいるのに増えないということは不活発会員を大量につくっていることを意味し、且つせいかくの伝道活動が無意味にしています。不活発になっている人にとっては、支部の活動がどんなに活発であっても何の意味も持ちません。このことはあなた自身が不活発となり教会と没交渉になったと仮定したら一層よくわかるでしょう。教会を知らない人と同様実際教会を離れた人にとって魂を救うためのプログラムや活動がいかに盛んに行われようともいったい何の意味があるのでしょうか。ある指導者にとって100人のうち一人ぐらい抜けてもたいして重要には感じられないかもしれません。しかし、その100人のうちのたった一人があなた御自身であるとしたら、他の99人がどのように活発であってもあなたには何の意味も持たないでしょう。神さまがこのたった一人をどんなに大切にされているかイエスのなされたあの迷える小羊の話を思いおこせば十分でしょう。神さまには全体ではなく一人一人が大切なのです。

兄弟姉妹たち、

北部極東伝道部が二つに分けられてから、すでに一年が過ぎ今や第二年度を迎えました。この年を迎えるに当って私たち伝道部長会は今年度の目標項目を「伝道とフェローシップ」といたしました。これには来年開かれる万博を通して数多くの方が教会を訪ねてこられるので、それに対応する意味もふくまれています。あくまでも私たちの意図するところは一人一人の大切さをよく知り、一人一人の幸福を促進することにあります。既述のごとく組織もプログラムも活動もすべて人の幸福をもたらすための手段に過ぎません。これらは一人一人の救いに目標を置いています。もしも、私たちがいつも一人一人の大切さを覚えて、あらゆるプログラム、活動において心をつにして今年度の目標を追求するのであれば、一年後には大いなる祝福を受けるに違いありません。各々の組織やプログラムがバラバラに勝手に動くのではなく、すべての活動において、最終的目標を同じくし、成果の評価を全体としてではなく、一人一人の幸福にどれだけ貢献したかで測るようにしましょう。各々の組織やプログラムが相互に協力して、どのようにこの目標を達成するかについては九月のワークショップで話しました。みんな心をつにしてこの目標を追求し、幸せを深めてゆきましょう。



支部旗、伝道部旗のもとで



堂々と入場行進



楽しいフォークダンスをみんなで



熱弁する弁士に聞きいる



素晴らしい沖縄コーラス

楽しかった

ユース・

コンファレンス

＊北は金沢、東は名古屋、南は沖縄と伝道部内の若くたくましい兄弟姉妹たちが集い1969年度ユース・コンファレンスが8月7日午後1時から10日の午後2時までの3泊4日間、神戸の六甲山のふもとのカナディアンアカデミーで開かれました。ピクニック、盆踊り、勉強会、コーラス、ドラマ、ファッションショー、屋外スポーツ、バスケットボール、フォークダンス、証詞会など楽しかった思い出で一杯になりました。この大会を成功させようとする全ての兄弟姉妹の働きと祈りがかなってプログラムは大成功の素晴らしい大会となりました。この楽しかったユース・コンファレンスをもう一度思い出しましょう。



せいぞろいした私達の旗



優勝旗は沖縄へ



美しかった福岡のフォークダンス

日本沖縄伝道部



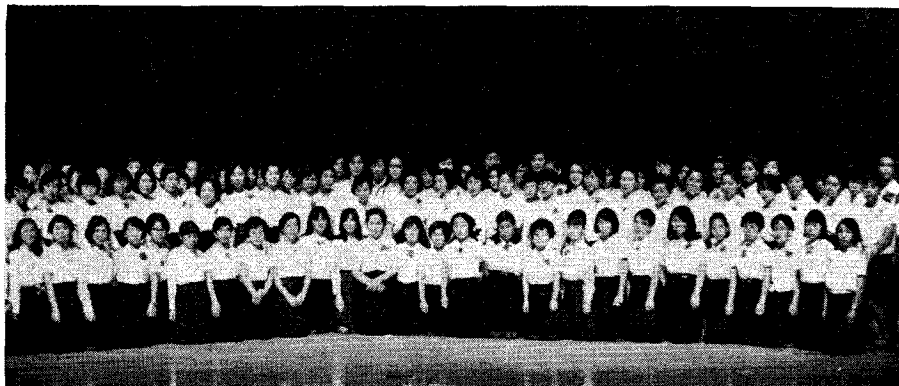
誕生祭開かる



＊第一回日本沖縄伝道部誕生祭が9月6日(土)、7日(日)に亘って開かれました。

6日の朝より伝道部役員によるワークショップが行なわれ、この大会のテーマである『伝道』を各補助組織を通してどのように助けられるかが指導されました。4時より模擬店での楽しい夕食、扶助協会姉妹の力作のファッションショー、ハッピーバースデーの歌声とともにバースデーケーキにナイフが入れられ<上の写真>盆踊りで最高頂に達しました。

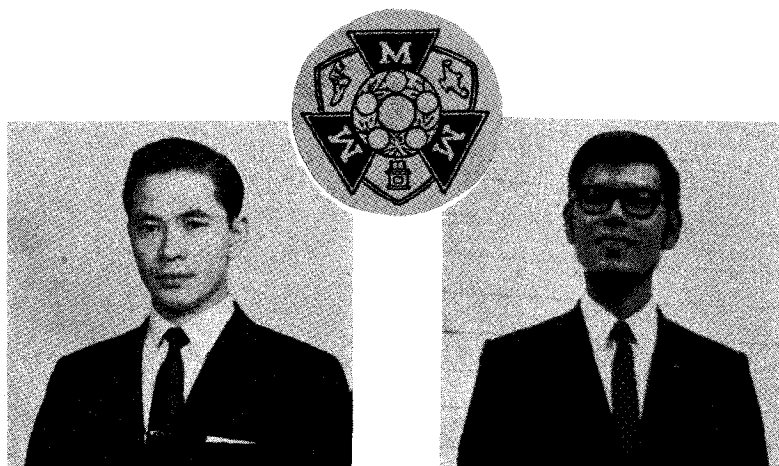
7日の大会で岡崎伝道部長並びに姉妹の感謝の言葉を聞いて、私達の心は一致した気持で一杯でした。シンギングマザーのコーラス<左下の写真>が高らかに響き、柳田聡子姉妹(名古屋支部)と周藤珠彦兄弟(阿倍野支部)の二人に<右下の写真>ゴールデン・グリーンナー名誉賞、マスターMメン名誉賞が贈られ、神様の業に増々励まねばという気持ちを胸一杯に素晴らしい第一回誕生祭を終えました。



＊マスターMメン、ゴールデン・グリーンナー賞受賞者。

MIAのプログラムが推進され、達成プログラムを通して素晴らしい兄弟姉妹が誕生し、“モルモンらしさの象徴”のピン<円内の写真>が続々と贈られています。

日本人として初めてのゴールデン・グリーンナー賞が早瀬久実子姉妹<阿倍野、写真左>に、マスターMメン賞が中野正之兄弟<阿倍野、写真中>、島田邦男兄弟<阿倍野、写真右>にそれぞれ贈られました。



東中央地方部大会開かる

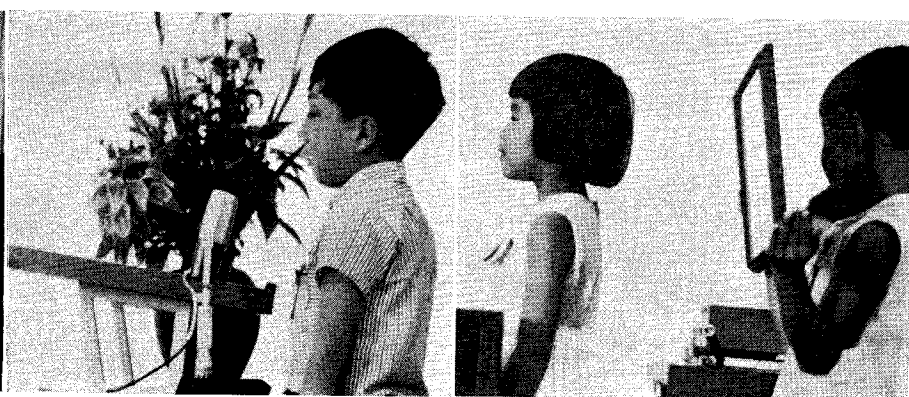
9月6、7日、東京北支部へ850余名の兄弟姉妹が集い、大会が開かれた。プライマリー、系図をテーマに力強い兄弟姉妹の証が述べられた。またこの大会で、十二人の地方部評議員が勢ぞろいした。右頁写真後列右より、今井、小室、水野、児玉、杉本、柴田、福井、高橋、山本、浅間、内山、斎藤の各評議員。



大神権を受ける兄弟たち



熱心に聞きいる兄弟、姉妹

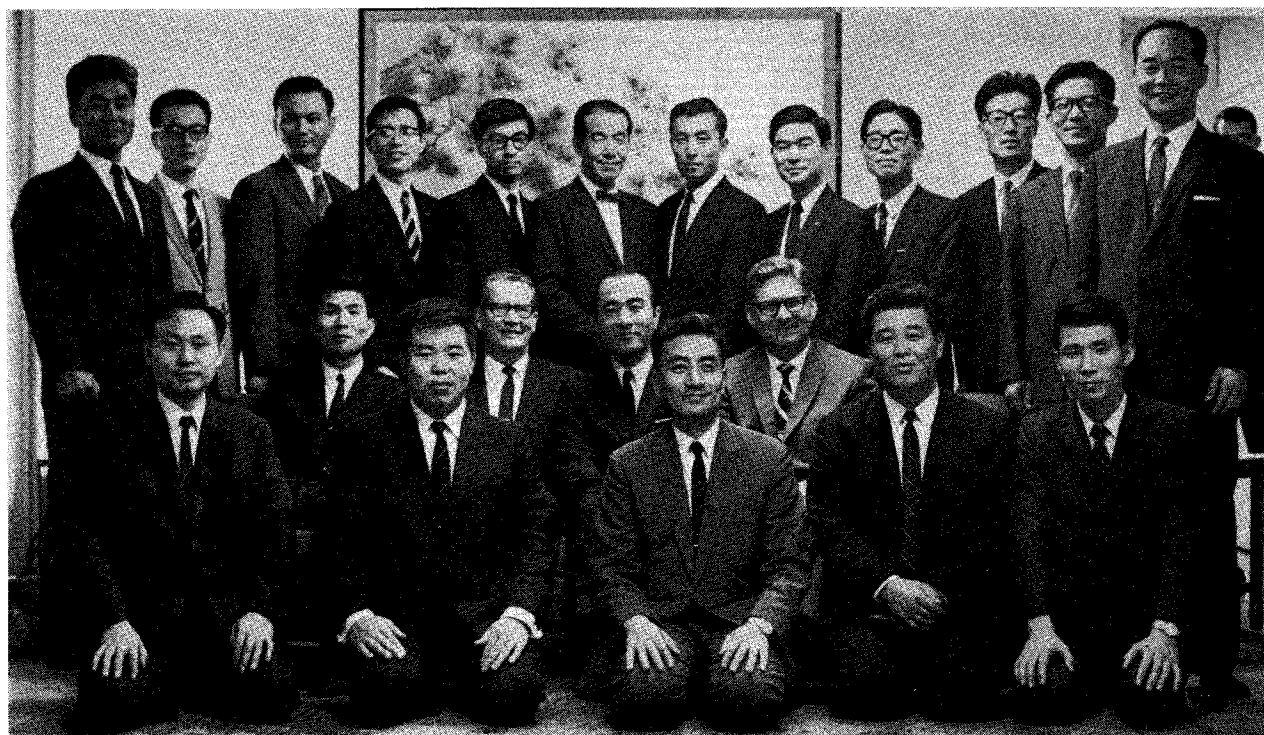


プライマリーでえた証を話す子供たち



地方部、伝道部プライマリー会長会 左より、小泉(第1)、高山(第2)、ビルス、重松(会長)、斎藤(書記)の各姉妹

東中央地方部評議員



宣教師活動

モルモン経多くの人々へ手渡される

各地で宣教師を中心にモルモン経による伝道が、活発になった。「この記録の目的は、イスラエル一家の残りの子孫に、その先祖のために主が為したもうた大きな御業をことごとく示して、残りの子孫が主の誓約を知り、かれらはいつまでも棄てられないと言うことを知らせ、またユダヤ人と異邦人とにイエスは永遠の神なるキリストにましまして、万国の民に現われたもうことを確信させるためである。」



教訓をおろそかにする時

リチャード・L・エバンズ

そのようにしようと思って生活しさえすれば、人生は楽しいものである。しかし、時には人生はつらいものでもある。人生はつらくないと言った人は一人もいない。私達全人類の父なる神もそうは言われなかった。いつくしみ深き御父は私達に勧告と注意を与えて下さり、御自身の言葉に従って私達を「いましめ、あらかじめいましめて」おられる。御父は次のようなことを言っておられる。「心を傷つけ精神を悩ますもの、健康と平安をそこなうもの、良心を困惑させるもの、個人の問題を複雑にするものなどで、あなた方の人生を混乱させてはならない」と。人にとって良いものもあるが、悪いものもある。このことは、道德の面でも、身体的、靈的な面でも真実である。しかしながら私達は、人類の長い歴史にわたる経験や神の勧告を知りながらも、なお同じあやまちを繰り返している。それは、頭を傷つけながら、壁に頭を打ちつけてなぜ壁はこわれなのだろうかといふかるようなものである。問題は、助言を聞くかどうか、戒めを知ってそれを守るかどうかである。「思慮なき人々が考えるような意味では、人は自由ではないということを知る時、それが真理であるゆえに、また最も大切な真理であるゆえに、そのことを知った時間はこの上なく貴重な時間となるであろう。」とライダ・チャーチルは書いている。私達に選択の自由があることは真実である。しかし選択の結果から自由なのではない。また法則の作用からも自由ではない。「敵に欺かれ友に裏切られることは耐え難いことであるが、それよりも自分自身を欺くことはさらに悪い……」とあるフランスの哲学者が言った。創造主は何が人に幸福をもたらし、何が不幸をもたらすかを知っておられる。だから私達は、人にとって悪いことでも何をしていても良い、その結果をまぬかれることができると考えて、自分を欺いてはならない。「……一つのおきて……健康のおきて、幸福のおきて、平和と進歩のおきて……ありて、あらゆる祝福はこれに基づく……」。（教義と聖約130：20）それであるから私達は、過去に繰り返して立証されてきたことを無視しては安全でいられない。過去の教訓をおろそかにするならば、私達は自分で代価を払ってその教訓を学ばねばならないのである。

聖徒の道

1969年10月20日発行

振替口座 東京 76226番

発行人兼編集人 ウォルター・R. ビルス

発行所 東京都港区南麻布 5-8-10

末日聖徒イエス・キリスト教会 電話 (442)7438

印刷所 太陽印刷工業株式会社

定価 100円

予約 一年間1,000円（外国4ドル50セント）

電報受信略号「トウキョウ」マツジツ